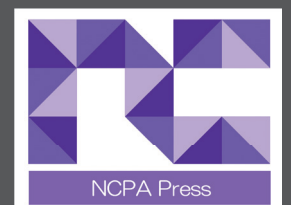


ノーコード開発 バイブル 2024 Summer

特別版

一般社団法人 ノーコード推進協会 編集



ノーコード開発バイブル特別版出版に向けて

2022年9月に設立されたノーコード推進協会（以下NCPA）は今年の秋に丸2年を迎えます。出版部会、広報教育部会、地方創生部会の3つの部会のメンバーらによって、これまで様々な企画が実施されてきました。

出版部会による「ノーコード開発バイブル」の出版をはじめ、イベント関連では2023年6月と2024年6月の「日本ノーコード大賞」の開催や2024年3月の「ノーコードシンポジウム2024」の開催。

自治体向けの施策としては2023年5月から開始されている「ノーコード宣言シティー」プログラム。このプログラムではすでに多くの自治体がノーコード宣言され、またこれに伴いセミナーなどの各種イベントも開催されてノーコードによる自治体DXを協会が後押しをしています。

さらには広報教育部会の教育チームが主体となって2024年3月からはNCPA認定の認定制度「ノーコードパスポート試験」がスタートし、既に3桁のお客様が受験申込みされています。

NCPAではこうした活動をWebサイトやプレスリリースなどを通じて広く広報していますが、2024年6月に渋谷ストリームホールにてハイブリッド形式で大々的に開催された「第2回日本ノーコード大賞」で見事最後の最終決戦にまで残った6社の事例をノーコードに興味をお持ちの方々に伝えるべく今回「ノーコード開発バイブル」の特別版を出版することとなりました。これらの事例を今後の皆さんのノーコードによるDX推進にお役立ていただければという想いです。

また最近では自治体でのノーコード導入が盛んになっており、自治体関係者からは自治体におけるノーコードの活用事例を知りたい、または自治体DXに貢献できそうなノーコード製品を紹介してほしいという声が増えてきております。

そこで今回のノーコード開発バイブル特別版では自治体におけるノーコード導入事例や活用提案も盛り込んでみましたので、こちらも様々なシーンでご活用いただきたいと考えております。

2年目を間近に迎え、NCPAは今後も皆様からのご意見やご要望に耳を傾け、積極的に活動していきます。

今後ともNCPAを宜しくお願い致します。

2024年7月
一般社団法人ノーコード推進協会
代表理事
中山五輪男



No Code
Promotion
Association





Part 1

第2回 日本ノーコード大賞 結果発表

自治体、民間企業、産官学や官民連携、DX支援の現場におけるすぐれた「DX事例」を掘り起こして紹介し、広く共有する「日本DX大賞2024」が2024年6月21日に開催されました。

「日本ノーコード大賞」は、日本DX大賞にエントリーされた事例の中からノーコードを活用して実現された優れた事例に対して表彰するものです。

ここでは、ノーコード推進協会の有識者による厳正なる審査のもと受賞した秀逸なノーコード活用事例を大賞（1社）、優秀賞（2社）、特別賞（3社）のプレゼン資料を余すことなく紹介します。

第2回 日本ノーコード大賞 結果発表
<https://ncpa.info/nocode-award-2nd-result/>



大賞

株式会社LIMNO

ノーコード活用で「現場のDX」推進

株式会社 **LIMNO**
代表取締役社長 木村 裕一

Beyond Technology, Beside You



株式会社LIMNOでは、「DX推進プロジェクト」を全社展開し、業務効率化、ビジネスモデル変革、新たな価値創造に取り組んでいます。



ノーコードアプリ開発ツール「Platio」の導入により、現場主導の改善と経営主導のビジネスモデル変革が融合しつつあります。会社が変わって行く胎動を実感し、多くの社員が主体的に変革に取り組んでいます。



ビジネスモデル変革・新事業創造とDX推進

Beyond Technology, Beside You

ビジネスモデル変革・新事業創造のための必須要件

1. ものづくり力を維持向上させながら新たな事業・市場を創造

基盤事業の維持向上

- ・ものづくり力
- ・受託開発事業



新ビジネスモデルの確立

- ・自社製品企画・開発
- ・サービス事業開発

2. ビジネスモデルを変革させながら持続的な成長を担う人材確保

3. 世界で戦える生産性、競争力、機能の獲得

DXで実現すること

- 既存事業の効率化とそれによる新事業へのリソースシフト
- 新事業のための新たな機能のすばやい獲得
- 差異化、競争優位獲得のためのデータ活用事業基盤構築
- 新事業の効率的なオペレーション体制の構築

DXによるプロセス改革の狙い

Beyond Technology, Beside You

■ トライ・アンド・エラーを繰り返すagileでオープンな商品企画・試作・製品化・改良

オープンイノベーション
エコシステム
V.co-Lab
(弊社内に設置)



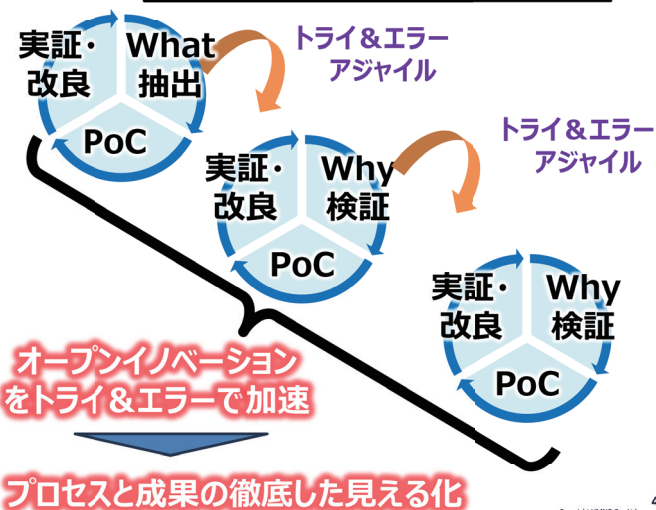
様々な社会的な垣根を越えて V.co-Lab から価値が生まれる



- ✓ 共育・共生活動にて、創造する価値・社会的効用(what)を抽出
- ✓ アジャイルで製作するWhatの試作品をその場で実証・フィードバック
- ✓ 社会実装するエコシステム組成の共創プラットフォーム

<p>大学・高専 研究/社会実装サポート →先端技術/社会実装/人材育成</p>	<p>小中高校/特別支援学校 ものづくり授業 →次世代育成/新商品づくり(2024年度)</p>	<p>地域社会 ひとりも取り残さないウェルビーイング →福祉/抱える方々、シェア等のご支援</p>
<p>社員 社会/個別ニーズとの接点 →化学反応/人材育成</p>	<p>ベンチャー/ビジネスパートナー 試作・生産/事業化/資金・人材支援 →国内産業活性化</p>	<p>地域事業者 ものづくり/サービス →地域産業活性化</p>

ウォーターフォール型から agile型のプロセスを支えるDX化



[大賞] 株式会社LIMNO __ノーコード活用で「現場DX」推進

ひとりひとりの生涯に寄り添うプラットフォーム提供事業者へ



まずは、現場主導のDXを推進していくために・・・

「ITアレルギーの解消」と「現場主導の推進」に焦点

- ✓ ITリテラシーがなくても、現場の知恵が生きるIT化を目指し
- ✓ **自分のためになることが実感できるITツール**
の利用から始めよう！

ITアレルギーが解消され、
自分で困りごとを解決できる“ときめき”を現場が感じて、
現場主導でのDX化が進む・・・はず！

そこで、Platioを採用！



Platioなら、

- ✓ ノーコードだから、誰でもアプリが創れる
- ✓ 直観操作で使えるから、誰でも効果を実感
- ✓ 改善成果が、誰の目にも明らか



DX推進の成功要因：現場に推進力

- **社長をリーダーとして**、全社各部門からメンバーを選出
＜各部門メンバー構成＞
 - ① 推進責任者：部長
 - ② **変革リーダー**
 - ・全社ならびに各部門のDX推進を先導するインフルエンサー
 - ③ **推進担当者（2名）**
 - ・業務効率化、プロセス改善の提案・実行、効率化ツール活用
 - ・職場の信頼を得て、職場の困りごとを解決できるという使命感

変革リーダー、推進担当者に若手社員の起用

■ 横展開の取り組み

- **PJ報告会（半期に1回）**を開催し、各部門の活用事例を発表、優秀アプリ開発者を社内表彰
- 部門推進者を対象にノーコードアプリ開発ツール（Platio）やRPAの利用方法を講習、勉強会
- 全社を跨ぐ課題について、**部門を横断した検討・連携体制**を構築
- 事務局より、月1回『DX通信』による情報発信、定期的なデジタル講習会を実施



Platio導入にあたって、ストレスはほぼ皆無

■ Platio導入の説明会后、すぐにアプリができてしまって、騒然！

1アプリ作成時間：3時間～2日
導入2か月間で20種以上の業務改善アプリが誕生

紙ベースの業務で発生していた非効率、転記作業をあっという間に一掃



部門を超えて情報交換
作る楽しさと使ってもらえる達成感の輪が広がり
→ **次々にアプリ開発、導入が進んだ！**

Platioの導入効果

Beyond Technology, Beside You

PJ開始から1年半で約70アプリを開発（40アプリ稼働中）

活用事例

- ・火元確認表（紙への記入+集計作業 → スマホで入力）
- ・消耗品管理（紙への記入+EXCEL入力 → スマホで入力）
- ・USB貸出管理台帳（紙への記入 → スマホで入力）
- ・スタバコ-ヒ-カウンター管理（紙への記入+EXCELへの転記 → スマホで入力）
- ・部品棚卸（紙への記入 → QRコード+スマホで入力）
- ・メタルマスク発注管理（紙への記入 → スマホ+PCで入力）
- ・委員会等の出欠管理（紙への記入 → QRコード）
- ・計測機器棚卸（紙への記入 → スマホで入力）
- ・計測器の日常点検表（紙への記入 → スマホで入力）
- ・事務用品（テプラ、デジカメ等）の貸出管理（紙への記入 → スマホで入力）
- ・固定資産の棚卸（紙への記入+写真撮影 → QRコード読取+写真撮影）
- ・来客受付管理（紙への記入 → QRコード+スマホで入力）
- ・コピー用紙在庫管理（紙への記入 → スマホで入力）
- ・各種鍵の貸し出し管理（紙への記入 → スマホで入力）

現場担当者が
手軽に業務改善を
試みられるようになった

9

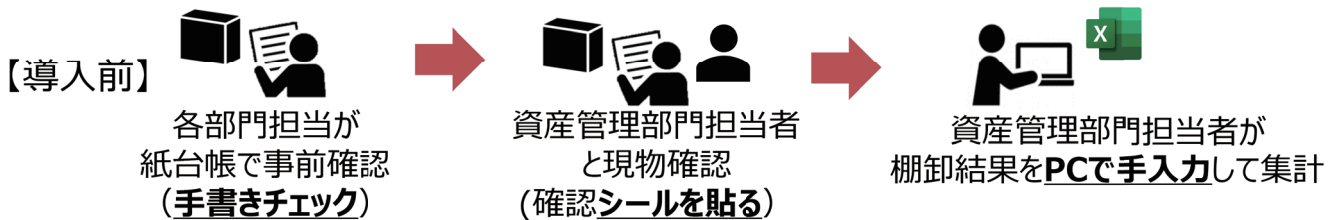
Copyright LIMNO Co., Ltd.

アプリ事例紹介（固定資産棚卸）

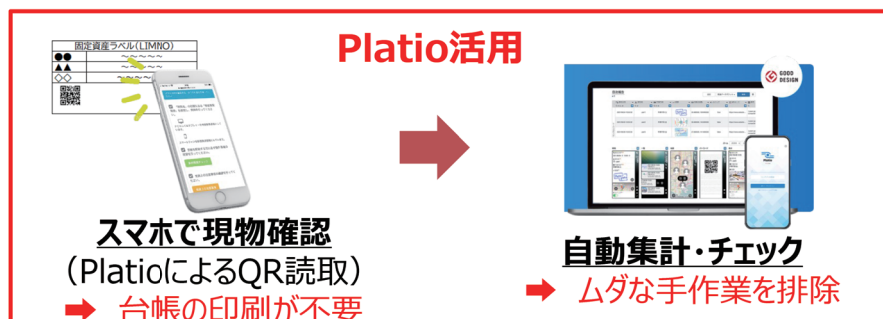
CONFIDENTIAL

Beyond Technology, Beside You

■ 半期に一度の固定資産棚卸（現物確認：全社）



【導入後】



10

Copyright LIMNO Co., Ltd.

アプリ事例紹介（火元点検アプリ）

Beyond Technology, Beside You

■ 各部署の最終帰宅者が火元、戸締り等を確認（全社で実施）



Copyright LIMNO Co., Ltd. 11

アプリ事例紹介（火元点検アプリ）

Beyond Technology, Beside You

導入効果：東京ドーム2個分の構内を歩き回らなくて良かった



日々、警備室へ提出する手間を削減

構内の点検状況を簡単に確認

点検表・集計表（紙）の準備、保管が不要

Copyright LIMNO Co., Ltd. 12

Platioの導入効果（現場部門）

生産革新の伝統を受け継いで、もともと現場改善の意識が高い

過去から小集団活動や改善活動を実施してきた実績



現場担当者

改善アイデアがあっても
IT化はIT部門でなければ・・・

システム構築、
改善依頼



IT部門

ITスキルはあっても
現業の業務課題は
なかなかわからない



ノーコードアプリ開発ツールという武器を手に入れ、
現場がその場で、改善アイデアをすぐにアプリ化

- 現場のアイデアや生の声が生きた業務改善アプリが多数誕生
- DXの必要性とその効果の体感・経験から、現場主導の全社DX機運が向上
- 課題解決のために現場単位でITを検討し導入する“DX文化”が醸成された



Platioの導入効果（バックオフィス部門）

改善効果が自部門のみならず、全社に反映されるのだが・・・

課題がいっぱいあって・・・できない言い訳が先に立つ！



バックオフィス
担当者

- ✓ 基幹システム中心の業務が多く、システムとの連携が不可欠
- ✓ 重要情報を取り扱うため、セキュリティ対策が必要
- ✓ 業務改善への意識が希薄
- ✓ 長年の業務慣習に馴染んでしまい、現状維持を良しとする風土

デジタル化・効率化がなかなか進まない！



ノーコードアプリ開発ツールの導入により、
まずは、“紙をデジタル化”するだけで効果は一目瞭然

- 紙に記入している業務を順次アプリ化することで、べんり！を体感
- 敷居が下がると、どんどん応用
- しかも、データが蓄積して活用までできてしまう！！

[大賞] 株式会社LIMNO __ノーコード活用で「現場DX」推進



Platioでの成功体験を重ね、DX文化に勢いが出た

全社員から「業務での困りごと、改善したいこと」を募集

約300件の課題が提起！！

DXへの期待感が醸成された結果

- ✓ Platioで解決できないか、まず検討
 - ✓ だめなら、面倒でもRPA等の別ツールで解決しよう
- これによって、**覚悟が決まった**



- 横展開を仕組み化
DX推進PJ報告会で各部門の**活用事例を発表、横展開、表彰**

DXに挑戦するのが、当たり前！



ノーコードアプリ開発ツールの今後の活用

ノーコード開発を拡大し、**デジタル化(データ収集)を加速**、データの活用・分析へ

野良アプリ防止
セキュリティ強化のための
システム化

課題 セキュリティ対策
ガバナンス体制

部門DX
現場の簡単な
ノーコード
要求実現
+ RPA

基幹システム
大規模で複雑な
システムの開発
スクラッチ

- ・既存のシステムやデータとの連携が不可欠
- ・高度なカスタマイズが必要
- ・セキュリティ要件が高い

様々な情報をデジタル化・蓄積

データ連携の実現により、
バックオフィス等での
ノーコード開発を促進

データ連携ツールを活用

例えば

Asterio warp
ノーコードで連携

データ活用・分析

データ
加工

データウェア
ハウス

BI
AI
活用

- ✓ 情報共有・効率化
- ✓ 新たなビジネスアイデアの発見
- ✓ 新規サービス開発のための分析
- ✓ 経営分析や意思決定支援
- ✓ 売上・コスト分析、需要予測など

生成AIの登場により、ノーコード開発はどうか？

Beyond Technology, Beside You

生成AI、ノーコードアプリ開発ツールともに、プログラミングの知識がなくても開発は可能だが・・・



依然として、ブラックボックス
→ **開発者の機能拡張**

現場の創意工夫の成果を実感できるし、ホワイトボックス
→ **DX推進基盤構築・強化**

融合

- 自発的なDX文化を成長させながら、より高度なタスクや自動化を促進
- データ活用による価値創造事業基盤構築・強化

まとめ

Beyond Technology, Beside You

ノーコード（Platio）がITアレルギー解消+DXいいね！に繋がった

- 現場の創意工夫がそのまま活かせる
- 効果が実感できて、部門を超えた改善活動に繋がる
- 自分が楽になる、仲間から感謝される
- IT、DXは楽しい！

DX成果の獲得につながる

- オペレーショナルエクセレンシーの獲得
- ビジネスモデル変革によって価値創造カンパニーへ生まれ変わる
- 主体的に改善、変革に取り組む人材を育み、企業のレジリエンスが強化される
- 仕事が楽しい、変化が楽しい、“ときめく未来をデザインする”文化が醸成される

[大賞] 株式会社LIMNO_ノーコード活用で「現場DX」推進

Beyond Technology, Beside You

EOF



LIMNO

Beyond Technology, Beside You



プロジェクトのタイトル（※50文字以内）

導入はゴールではない！ 下妻市が進めるDXのキホン

会社名・団体名

茨城県下妻市

1

プロジェクト概要（Webに公開予定あり）



下妻市は、令和4年度にDX専門部署を新設し、次の取組を行っています。

1. DX推進体制の整備と計画策定

市長を本部長とする推進本部を設置し、全庁体制でDXに取り組んでいます。令和5年3月には「下妻市DX推進計画」を策定しました。

2. 新庁舎移転による執務環境改善

令和5年5月の新庁舎開庁に合わせ、無線LANやモバイル端末、仮想ブラウザを導入し、職員の執務環境を改善しました。また、新庁舎に合わせた統一のルールとして、庁内ルールを策定し、働き方改革を進めています。

3. 内製化できるノーコードツールの導入

サイボウズのkintoneを導入し、職員自身が200以上のアプリを運用し、業務改善を進めています。また、LINE上で様々な手続きを行える「スマホ市役所」を開設し、24時間365日利用可能な行政手続きを構築しました。

2

[優秀賞] 茨城県下妻市_導入はゴールではない！ 下妻市が進めるDXのキホン



プロジェクト概要 (Webに公開予定あり)

4. 独自の職員研修の実施

ICTスキル向上とノーコードツールの利用促進のため、独自の研修を行っています。Kintoneの基礎編は既に7割以上の職員が受講し、ホームページ作成やスマホ市役所に関する研修も実施しています。

5. 市民への支援

高齢者向けのスマートフォン購入補助や相談コーナーを設けるなど、デジタルデバインド対策を行っています。また、ノーコードツールを活用し、スマートフォンで行える手続き等の充実を進めています。DX推進にあたっては、スマートフォンをお持ちでない方や苦手な方にも配慮し、従来のアナログ方式とDXのハイブリッド方式で進めています。

この中でも、ノーコードツールの導入に合わせて市独自の研修会を実施したことで、全庁利用が進展し、職員が自ら業務に必要なアプリを作成するようになりました。

この結果、業務効率化が進み、アジャイル型への働き方に変化しています。

3



プロジェクトの目的や背景

近年、自治体DXが叫ばれる中、下妻市では令和4年度にDX推進のための部署が新設されました。

しかし、それまでの状況は、

- ・ 情報担当が令和3年度までは3人しかおらず、DX推進に手が回らない状況だった。
- ・ 職員のICTリテラシーが時代に追いついておらず、デジタル化への抵抗感が根強かった。
- ・ アナログ文化が根付き、紙ベースの業務プロセスが横行。無駄な残業が発生していた。
- ・ 新規事業に対応するシステム導入には時間と費用がかかり、実現困難な状況だった。
- ・ Excelでは管理できない案件（相談業務、プロセス管理など）が増加しており、業務効率化が課題となっていた。

これらの課題を克服するための取り組みが必要でした。

4



プロジェクトの目的や背景

そこで、課題を解決するため、令和4年度より次の取組みを始めました。

1. DX推進体制の整備と計画策定
2. 新庁舎移転による執務環境改善
3. 内製化できるノーコードツールの導入
4. 独自の職員研修の実施
5. 市民への支援

このうち、ノーコードツールの導入については、職員の利用促進と業務改善アプリとしての定着を図るため、市独自の操作研修会を実施しています。

プロジェクト詳細



3. 内製化できるノーコードツールの導入

- 「kintone1年間無料キャンペーン」による1年間の無料トライアル後、令和5年6月より本格導入。現在、200以上のアプリが運用中
- LINE上で様々な手続きを行える「スマホ市役所」を開設し、24時間365日利用可能な行政手続きを構築



アプリ作成例

運転日誌のアプリの導入（新庁舎から導入）
公用車の運転記録をスマートフォンで入力



年間8200件以上の運転記録
入力時間：136時間以上削減

【導入のメリット】

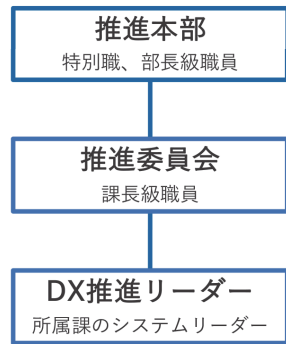
- kintoneの全庁活用・DX推進
- 運転日誌がなくなり、ペーパーレス化推進
- CSVファイルで出力ができ、集計・統計が簡単
- 給油の一覧を簡単に抽出可能
- 「特記事項」に入力した場合、担当にメール通知



プロジェクト詳細

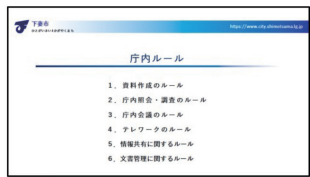
1. DX推進体制の整備と計画策定

- 市長を本部長とする推進本部を設置し、全庁体制で推進
- 令和5年3月に「下妻市DX推進計画」を策定
- 半期ごとの進捗管理を実施



2. 新庁舎移転による執務環境改善

- 職員端末の無線LAN化
- モバイル端末の導入
- インターネット分離環境の見直し
- ペーパーレス会議システムの導入
- 庁内ルール of 策定



プロジェクト詳細



4. 独自の職員研修

- DX推進課による独自の研修会を実施
- Kintone基礎編は、7割以上の職員が受講済
- Kintone以外にも業務に役立つ研修会を実施
- アプリ作成のサポートを実施
- 職員のICTスキルが向上



R5実績
・ 51回開催 ・ 延べ531人受講

研修内容	開催回数	参加延人数
新規採用職員ICT研修	2回	13人
kintone(初級編)	2回	8人
kintone(フォームブリッジ)	5回	19人
kintone(プリントクリエイター)	4回	26人
kintone(脱初級編)	2回	13人
スマホ市役所(申請基礎)	8回	75人
スマホ市役所(予約基礎)	10回	72人
ホームページ研修	2回	20人
パワーポイント研修	5回	58人
GIS(初級)	2回	25人
GIS(中級)	2回	24人
主幹・主事級向け説明会	4回	97人
補佐・係長級向け説明会	3回	81人
合計	51回	531人

[優秀賞] 茨城県下妻市_導入はゴールではない！ 下妻市が進めるDXのキホン



プロジェクト詳細

5. 市民への支援

- 高齢者向けスマートフォン購入補助や相談コーナーを設けるなど、デジタルデバインド対策を実施
- ノーコードツールを活用し、スマートフォンで行える手続き等の充実を進めている
- DX推進にあたっては、スマートフォンをお持ちでない方や苦手な方にも配慮し、従来のアナログ方式とDXのハイブリッド方式で進めている

以上の取組の中でも、ノーコードツールの導入に合わせて市独自の研修会を実施したことが、下妻市におけるDX推進の特徴となります。



プロジェクトのアウトプット（実現できたことや成果物）



プロジェクト実施により、以下の成果を得ることが出来ました。

	プロジェクト実施前	プロジェクト実施後
DX推進体制	DX推進に手が回らない	全庁的な推進体制が確立
職員のICTレベル	ICTレベルが時代に追いついていない	研修によりレベルが向上
業務プロセス	紙ベース	ノーコードツール活用にシフト
業務効率化	なかなか進まない	職員の意識が変わり、格段に進んだ
システムの導入・作成	導入できない	必要なアプリを作成できる
市民サービス	アナログな市民サービス	スマートフォンからアンケートや申込ができるようになった。 市民サービスの向上 便利な市役所

[優秀賞] 茨城県下妻市_導入はゴールではない！ 下妻市が進めるDXのキホン



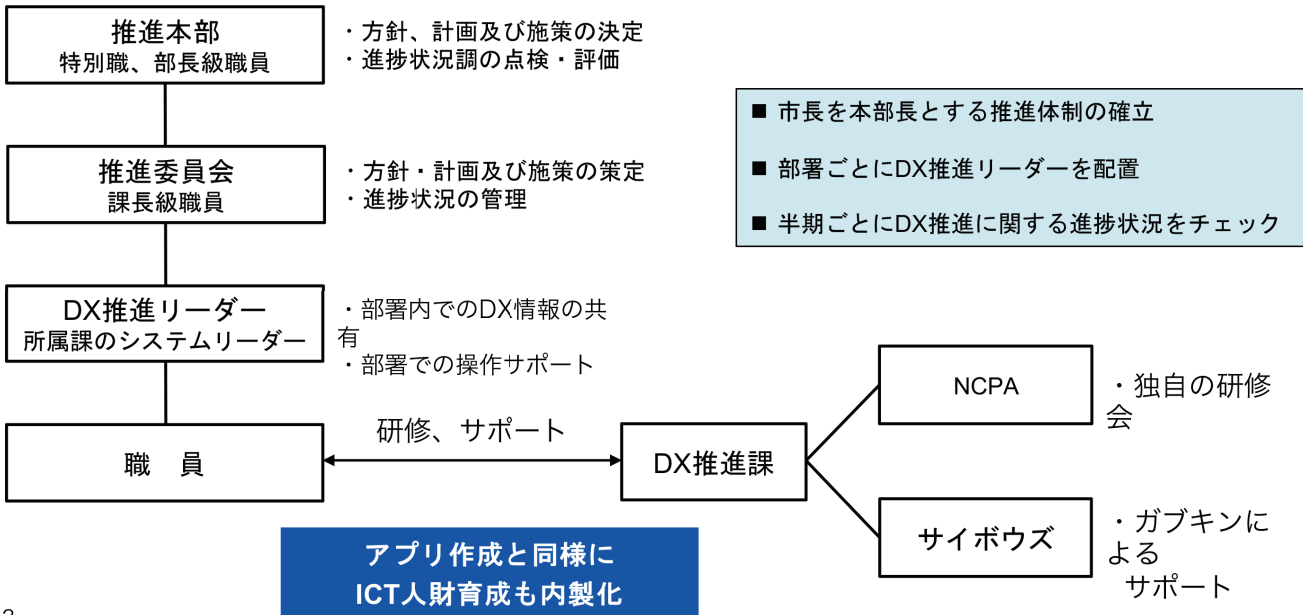
プロジェクトの成果やインパクト

業務効率アップ！働き方改革を推進するDX

- 全庁的な推進体制の整備により、DX推進が円滑化
- 執務環境が改善し、働きやすい環境が整った
- 職員主導のアプリ開発が進んだ
- 前例主義からアジャイル型への移行
- 市民サービスDXが加速



プロジェクトの実施体制



価値創造のためのデジタル活用のポイント



- 必要なアプリを作成できる環境の構築
- 研修を通じ、職員のICTレベルが向上
- 職員がDXを理解し、意識改革が進んだ
- ノーコードツール活用により短時間で業務アプリを作成可能
- Excel+メールで行っていた照会・調査をkintoneにシフトすることで、業務効率化が進んだ
- スマートフォンからアンケート回答や申込ができるようになり、市民サービスが向上

13

【任意】付記



DX推進において、導入は単なるスタートラインであり、真のゴールは、その先の業務効率化や市民サービス向上にあります。

「導入した」、「実践した」だけで、その後のフォローを行わなければ一過性のものとなり、DXは推進されないことから、下妻市では、効果を最大限に引き出すために、以下の取り組みを実施しています。

- 操作研修会の開催
- アプリ作成のサポート
- 各種施策のアップデート（改善等）

当たり前のことと思われるかもしれませんが、このような取り組みが徹底されないために、DX推進がうまく行かないケースも少なくありません。

DXにおいて重要なポイントは「D」ではなく「X」であることを、DXを推進する担当者、そして職員が意識することが成功の鍵を握っていると思います。

14



優秀賞

大日本印刷株式会社



全社横断型コミュニティで実現する 新たなR&Dの形～DNP生成AIラボ・東京～

大日本印刷株式会社

1

プロジェクト概要



2023年10月に組織化され、12月に施設としてオープンした「DNP生成AIラボ・東京」は、最先端の技術を活用するために高速でプロトタイプするR&D機能と、顧客課題との接点となる対話機能を同一施設に集約することで、社会課題の解決につながる、生成AIを活用したサービスが次々と生まれる新たなR&Dのスタイルを確立した。

「DNP生成AIラボ・東京」の中核となる、DNPグループ横断型のTeamsコミュニティには、生成AIに関心を抱く2,500名以上の社員が能動的に参加。DNPグループ全体が生成AIを自分事として捉えることで、ラボ設立後3カ月で目標値の1,000件を超える生成AI利用のユースケースが集まり、うち70件のユースケースが動く形で社内公開された。

ラボの取組みはDNPの顧客からも注目され、4カ月で130社以上が「DNP生成AIラボ・東京」に来館。さまざまな業種業界の顧客と、動くユースケースをヒントにディスカッションを実施することで、共創型の価値検証も20件以上進行している。

高速プロトタイプを実現するため、ノーコード開発ツール「AppSheet」のハンズオンを社内で定期開催し、180名以上が参加。参加者のうち6割以上がプログラミング未経験者でありながら、生成AIを活用したスマホアプリの開発が数時間で可能となり、DX人材のスキルの底上げと、ユースケースの具現化を実現している。

社内横断型コミュニティを通じた活動により、ユースケースとして社内現場における業務課題が可視化され、プロトタイプからの市場投入まで、スピード感のある価値創造が可能となった。

2

[優秀賞] 大日本印刷株式会社 全社横断型コミュニティで実現する 新たなR&Dの形～DNP生成AIラボ・東京～



プロジェクトの目的や背景①

【抱えていた経営課題】

- ・アイデアをカタチにできるクリエイティブな人材（DNPの考えるDX人材）の育成
- ・社内現場における業務課題の可視化
- ・最新の技術（主に生成AI）を活用した価値提供

【プロジェクト設立の経緯】

生成AIについては、ChatGPTを2023年5月に全社員向けに導入したものの、具体的な社内業務やサービス開発への適用は組織的には進んでいない状況であった。

2023年8月から9月にかけて、米国における生成AIのプロダクション環境への適用事例を視察し、利用シーンである「ユースケース」を考え、動く形でプロトタイピングすることを高速に繰り返しながら、生成AIの利活用を前進させることが重要であると判断、上記の経営課題を解決することを目的に「DNP生成AIラボ・東京」を2023年10月に1年時限のプロジェクトとして組織化した。

参考：「DNPグループ社員3万人に向けて「生成AI」の利用環境を構築」
https://www.dnp.co.jp/news/detail/20169392_1587.html

3



プロジェクトの目的や背景②

【プロジェクトのビジョン「人々が生成AIと共創する新しい体験価値を生み出す」】

私たちのビジョンは、技術が急速に進歩する現代社会で、最新の技術を業務や生活に活用するための発信拠点となることです。DNP生成AIラボ・東京では、社内外の人々とのディスカッションから生まれたユースケースを具現化し、それを通じて人々が生成AIと共創する新しい体験価値を生み出すことをめざします。私たちは、未完全ながらも絶えず進化する技術を活用し、それがもたらす可能性を探求し、具現化することで、未来のカタチを創り出します。

ビジョンを具現化するためのKPIとして以下の数字を定め、1年間の時限プロジェクトの中で、社内外から数多くのユースケースを集め、動くカタチにし、対話と協働を実施することで、市場への価値提供をめざしている。

【KPI（発足後1年間の目標値）】

- | | |
|-------------------|--------|
| ・ユースケース数 | 1,000件 |
| ・動くユースケース開発 | 100件 |
| ・顧客との対話（ディスカッション） | 100社 |
| ・協働（価値検証） | 20件 |
| ・サービスの市場投入 | 5件 |

【DNP生成AIラボ・東京のコンセプト】

“知る”だけでなく“感じる”
“感じる”だけでなく“考える”
“考える”だけでなく“つくってみる”

生成AIの“可能性”を“動くカタチ”にする。

4

[優秀賞] 大日本印刷株式会社 全社横断型コミュニティで実現する
新たなR&Dの形～DNP生成AIラボ・東京～

プロジェクト詳細①（活動拠点「DNP生成AIラボ・東京」）



DNP生成AIラボ・東京は、組織として2023年10月にプロジェクト化。2023年12月より、顧客接点と最新技術開発が共存する形式でオープン。



DNP生成AIラボ・東京の外観
(地上2階、地下1階、全3フロア)



【2F/対話ゾーン】

生成AIの利活用について深く議論し、新たなアイデアを顧客とともに生み出す。発話内容がリアルタイムで文字起こしされ、イメージ画像が描写される。



【1F/工房ゾーン】

エンジニアが常駐し、アイデアを具体的な形にするため、プロトタイプを開発する。顧客のエンジニアとの協働も可能なスペースで、3Dプリンタを活用したモノづくりも可能。



【B1F/デモ体験ゾーン】

70を超える動くユースケースを展示。生成AIを活用するとインプットからどのようなアウトプットが生まれるのかを体験できる。

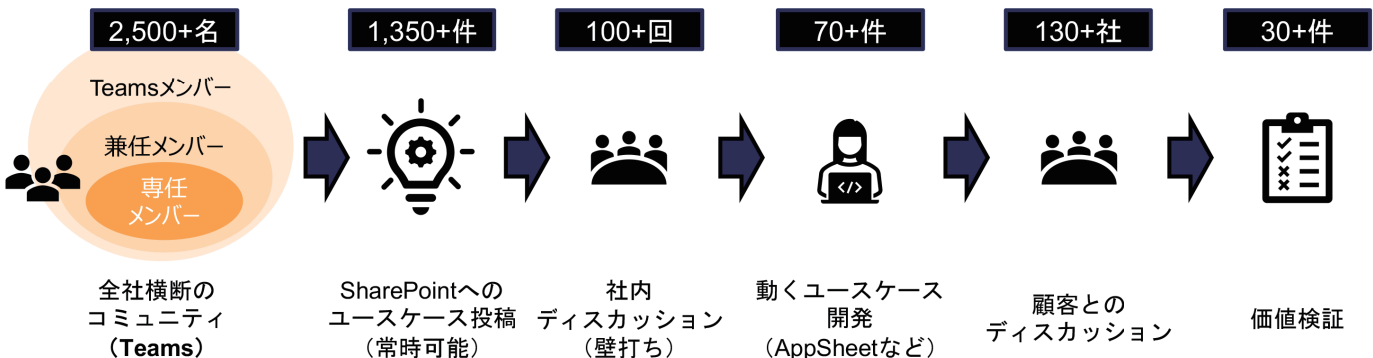
参考：「DNP生成AIラボ・東京」をオープンしてパートナーと新たな価値を創出
https://www.dnp.co.jp/news/detail/20170008_1587.html

プロジェクト詳細②（ユースケースを生み出す仕組み）



25名のプロジェクトメンバー（専任8名、兼任17名）を中心に、生成AIに関心のあるDNPグループ社員であれば誰でも自由に参加できる社内コミュニティを形成。役員クラスから現場のメンバーまで2,400名以上が手挙げ式で参加し、生成AIに関する情報共有や勉強会を開催しながら、業務改善や既存サービスの機能拡張、新規サービスなどのユースケースを自由に投稿できる交流の場を構築。

週2回開催している社内ディスカッションの場では、投稿されたユースケースの実現可能性について、アイデア投稿者とラボのメンバーが議論し、動くユースケース開発へとつなげている。



[優秀賞] 大日本印刷株式会社 全社横断型コミュニティで実現する
新たなR&Dの形～DNP生成AIラボ・東京～

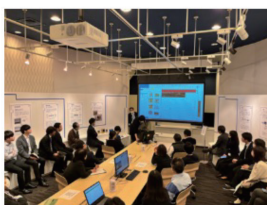


プロジェクト詳細③（組織横断で学び・開発する風土醸成）

2023年12月には社員向けに「DNP生成AIラボ・東京」の活動を公開するイベントを開催。3日間で1,435名が参加し、ビジョンや生成AIの最新技術を学び意見交換する場となった。

また、社員が投稿したユースケースを応募者自らが開発できるようにするため、2023年12月から毎月2回、ノーコード開発ツール「AppSheet」のハンズオンを開催。2時間で生成AIを活用したスマホアプリのプロトタイピングが可能となる研修プログラムを内製し、社外にも提供可能な状態となっている。

「AppSheetハンズオン」は今までプログラミング開発を一度も経験したことがない非エンジニアでも気軽に参加できる内容で、参加者の6割強が「生まれてはじめてプログラミングを体験」という状況であるにも関わらず、1名の離脱者もなく、ノーコード開発ツールの実力を体感している。もともと受講者だった社員が次回以降で講師になるケースも生まれており、一部の人が開発をするのではなく、組織全体で開発をする風土醸成につながっている。



社員向け公開イベントの様子（2023年12月）

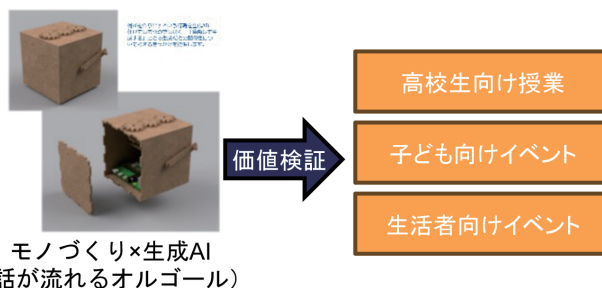
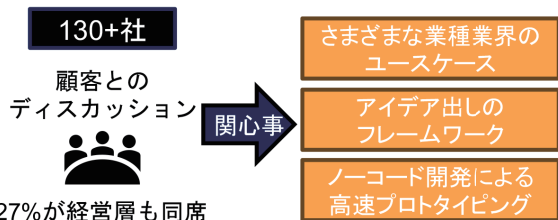
AppSheetハンズオンの様子



プロジェクト詳細④（顧客とのディスカッション）

DNPのさまざまな業種業界の顧客から「DNP生成AIラボ・東京」への問合せがあり、2024年3月までに130社以上が来社。顧客の27%は経営層も含めたディスカッションを実施している。生成AIを活用したさまざまな業種業界の具体的なユースケースだけでなく、社内で生成AIを定着化するための方法論や、生成AIラボ設立のノウハウなど、議題は多岐にわたっている。DNPの開発エンジニアがディスカッションを実施しているため、最新の技術と顧客ニーズが非常に近い距離間となっている。

DNPのこだわりのひとつとして、製造業ならではのモノづくりと生成AIとを掛け合わせた価値づくりが挙げられる。スマホやPCの画面から情報を得るのではなく、モノを介した入出力によって、新たな体験価値を生み出すだけでなく、生成AIの技術の恩恵を受けることができるターゲットを今以上に増やすことができると考えている。実際、顧客とのディスカッションから、高校生向けの生成AI×3Dプリンターの授業案が生まれたり、子ども向け、生活者向けの新たなデバイスや生成AI体験イベントが生まれたりなど、モノづくりと生成AIの共創型の価値検証が進んでいる。



[優秀賞] 大日本印刷株式会社 全社横断型コミュニティで実現する 新たなR&Dの形～DNP生成AIラボ・東京～

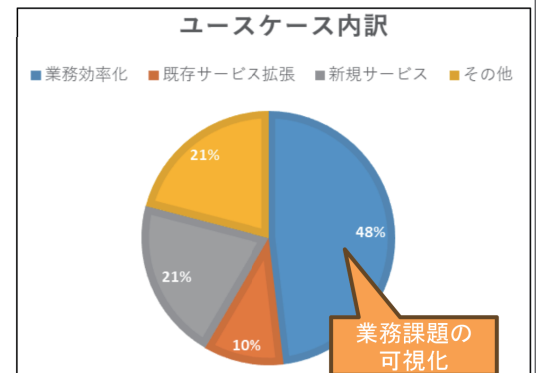


プロジェクトのアウトプット（実現できたことや成果物）

「DNP生成AIラボ・東京」を生成AIの社内浸透活動のシンボルとし、DNPグループ横断で社員が生成AI利活用を自分事として捉えることで、活動開始後3カ月で1,000件のユースケースが集まった。ユースケース全体の48%が現場の業務効率化の課題であり、結果として、社内における業務課題の可視化につながった。

動くユースケースの開発も、一部のエンジニアだけが担うのではなく、ユースケース発案者が自ら開発をしたり、開発未経験者がノーコード開発ツールを学んだりすることで具現化に寄与している。

また、エンジニアが顧客と直接ディスカッションすることで、日進月歩の生成AIの技術を顧客ニーズに適応させることが可能となり、価値検証にもスムーズに移行している。



KPI	目標(2024年9月末)	実績(2024年3月末)
ユースケース(件数)	1,000	1,351
動くユースケース(件数)	100	71
顧客とのディスカッション(件数)	100	137
価値検証(件数)	20	31
サービスの市場投入(件数)	5	3

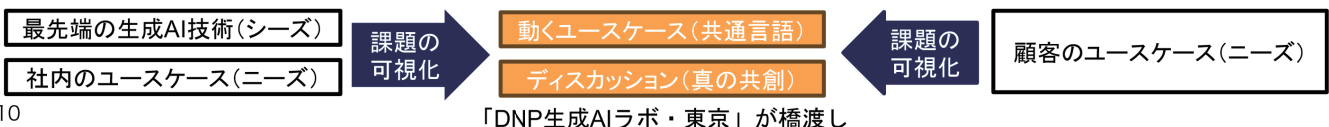


プロジェクトの成果やインパクト

「DNP生成AIラボ・東京」活動の本質的な価値は、生成AIという新しい技術に対して、DNPグループ全体が自分事として捉えて、社内コミュニティという新たな形式でR&Dを実現したことである。

また、エンジニアと顧客接点を同一拠点にすることで、従来と比べると圧倒的なスピードでシーズである技術を市場投入することに成功している。「動くユースケース」という共通言語と、「ディスカッション」という真の共創を通じて、ニーズ（課題）とシーズ（生成AI）とを「DNP生成AIラボ・東京」が橋渡しをすることに成功した。

項目	Before	After
R&D体制	研究所や開発部門が実施	ラボのメンバーを中心にコミュニティ全体で実施
R&D組織の顧客との距離感	郊外など顧客と離れた場所に存在	顧客が訪問する場所と同一拠点
ノーコード開発の浸透	目的が不明確で浸透せず	目的(ユースケース具現化)と手段(ノーコード開発)がリンクし浸透
サービスの上市までのスピード	数カ月から数年	ディスカッション実施から最短45日でサービス化
現場の課題可視化	実施できず	ユースケースにおける現状課題として把握・可視化

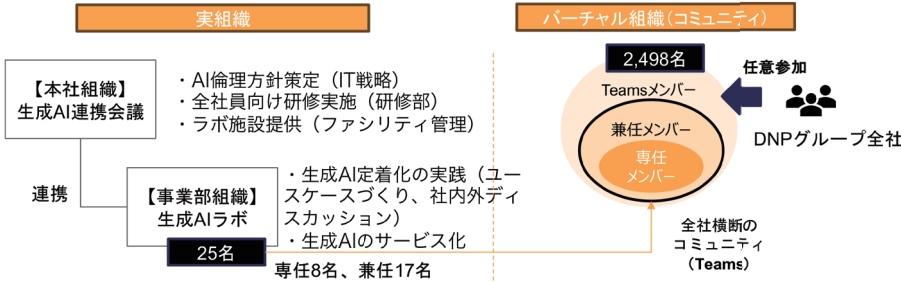


[優秀賞] 大日本印刷株式会社 全社横断型コミュニティで実現する 新たなR&Dの形～DNP生成AIラボ・東京～

プロジェクトの実施体制



- ・ 事業部内に「生成AIラボ」というプロジェクト組織を設立。
- ・ 全社横断で取組むためにバーチャル組織のコミュニティを立ち上げ、プロジェクトのメンバーが専任、兼任としてコミュニティ活動をリード。
- ・ コミュニティの中で、ユースケースづくり、社内外ディスカッション、情報共有、教育（AppSheetハンズオンなど）を実施



11

価値創造のためのデジタル活用のポイント



- ・ Microsoft Teamsを活用しコミュニティ活動の中心となる情報共有やオンライン勉強会を実施。
- ・ Microsoft SharePointを活用しユースケース登録システムを構築。アイデアをリアルタイム集計しスコアリング。
- ・ AWS、Microsoft Azure、Google Cloudの生成AI関連のサービスを活用し、動くユースケース開発や、価値検証（PoC）を実施。
- ・ ノーコード開発ツール（Google AppSheet）を活用し、最短2時間で動くユースケースを開発。



Teamsを活用したコミュニティ

12



SharePointを活用したリアルタイム集計



AppSheetを活用した動くユースケース

付記（ユースケース例）



さまざまな業種業界の顧客とのディスカッションから、社会課題の解決につながる、生成AIを活用したユースケース、サービスが次々と生まれている。

- ・ ペットボトルをカメラで撮影することでキャラクターを生成。店頭でのリサイクル促進に寄与。
- ・ 3Dプリンターを活用したモノづくりと生成AIを掛け合わせることの意義（デジタルが苦手な人、小さな子ども、ハンディキャップのあるかたにも、モノを介して情報伝達ができる）を伝える高校生向けプログラムを提供（DXハイスクールの授業としても採用）。
- ・ 視覚障がいのあるかたに目の前の景色や感動を伝える。

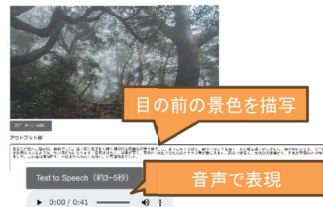


ペットボトルリサイクル促進ツール

13



DXハイスクール1,000校向け講座



視覚障がいのあるかたに感動を届ける

1週間で新規ビジネス立ち上げは可能なのか？ ～社内情シスからの解放～

株式会社 ALL CONNECT

1

プロジェクト概要（Webに公開予定あり）



本プロジェクトの**目的**は、社内の情報システム部門から脱却して自分たちで「BtoCサブスクリプション型ビジネスに必要な基盤を**1週間**で用意する」ことである。

結果として、業務担当者が新規ビジネスを早くスタートするための基盤をノーコードで構築し、

- ・構想からサービスリリースまでの期間を従来の**3分の1**に短縮
- ・2022年から2023年にかけて、社内の新規ビジネス立ち上げ数が**4倍**に増加

当時の**課題**である

- ・自社用のシステムは情シスしか触れない
- ・複雑な事業故に、半年から年単位でのシステム構築が必要
- ・専門的な開発スキルが必要で、扱える担当者が限られる

をノーコードツールである **kintone** と **Stripe** を組み合わせて活用し、解決。
迅速な開発と柔軟な改善が可能になり、開発スキルを持たない社員でも、ノーコードで自ら改善できるようになった。

結論、

情シスの介入なくとも、複雑なサービス設計の事業運営に必要な基盤を構築できた。
ノーコードは、ビジネスを加速させ、DXの先に利益を生み出すことを実証。
また、社員をコア業務に集中させ、ビジネス展開を進めるために不可欠な技術だと考える。

2

[特別賞] 株式会社ALL CONNECT_1週間で新規ビジネス立ち上げは可能なのか?



プロジェクトの目的と背景



事業部門



『BtoCサブスクリプション型の
新規ビジネスを早く始めたい』

遅い...いつもこれだ...
今すぐスタートしたいのに...



情シス部門

『社内システムの構築に半年かか
る...』

Q

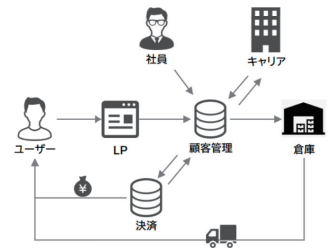
なぜ時間がかかるのか?

- 自社用のシステムは情シスしか触れない
- 情シスの中でも扱える担当者が限定されていた
- **そもそもビジネスモデルやサービス設計が超複雑!!!**



制約事項を無視する
基盤ができれば...

- 誰でも扱える
- 専門的な開発スキルや経験は不要
- 複雑な事業・サービスの運営可能



※半年以上かかるのは、**妥当な複雑さ**

掲げた目標

ノーコードを活用して
1週間で新規ビジネスをスタートできる基盤を作る

3



じゃあ誰がやる?

決められた期限内で、実現可能な人は誰か検討

適任者	評価項目		
	1 事業理解度	2 リソース確保の柔軟性	3 IT知見
社内エンジニア(情シス)	×	△	◎
業務担当者	◎	◎	×

ノーコード開発のためIT知見がなくても早くプロジェクトを完遂できうる⇒「業務担当者」をアサ

4

イン

[特別賞] 株式会社ALL CONNECT_1週間で新規ビジネス立ち上げは可能なのか?



プロジェクト詳細 (選定・活用したツール)

システム	概要	メリット・選定理由
<p>+ 周辺プラグイン (CUSTOMINE, kMaireなど)</p>	クラウド型の業務アプリを直観的に開発できるツール	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーコード開発が可能 ・ドラッグ&ドロップでかなり直観的に操作可能 ・社内で利用経験あり (kintone) ・拡張性が高い (周辺プラグインとの連携により)
	オンラインでの決済から財務管理までオールインワンで、簡単かつ安全に行えるプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・アカウント申請が5分で終わる ※通常の決済代行だとアカウント申請している間に1週間過ぎる ・ノーコードで料金計算、申込・決済フォームが作れる ・財務部が必要とする売掛年齢表などのレポートがそのまま出る
	システム間API連携や定期実行処理をノーコードで開発可能なツール	<ul style="list-style-type: none"> ・Stripe、kintone間のAPI連携がノーコードで可能 ・ワークフローを視覚的に描画でき、理解が容易

5

プロジェクト詳細 (kintone・周辺プラグイン)



機能	機能詳細	構築内容
顧客・契約管理	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客、契約情報の登録と更新 ・顧客の対応履歴を記録 	プロセス管理で「ステータス」「アクション」「作業者」を可視化。進捗管理と対応漏れ防止
在庫管理	<ul style="list-style-type: none"> ・販売商品の登録と更新 ・発送先の契約者情報を登録と更新 	カスタミンで割当管理を自動化。更新漏れ防止
委託倉庫への出荷指示	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫システム仕様のデータ出力 ・発送先住所を登録 	倉庫担当者が「一覧」機能から指定カラムのCSVを出力
メール送信・帳票出力	顧客別フォーマットでメール送信や契約書作成し、発送	<ul style="list-style-type: none"> ・メールの自動送信、予約送信(kMailer) ・ボタン押下で顧客別に帳票出力 (PrintCreator)

工夫点

- ・既存システムと項目名称合を合わせる ⇒ 利用者の使用感を考慮
 - ・カスタミンによる入力補助や入力値チェック ⇒ 作業ミス・確認作業を削減
- ※用意されているプラグインだけで要件を実現できた

6



[特別賞] 株式会社ALL CONNECT _ 1週間で新規ビジネス立ち上げは可能なのか？



プロジェクト詳細 (Stripe)

機能	機能詳細	構築内容
定期決済(サブスク) 都度決済	・毎月1日に当月料金を請求 ・顧客ごとに任意タイミングで即時決済	・登録済クレカに毎月自動決済 ・支払い用リンクをメール配信
請求書発行	・利用料金、税計算された請求書を作成し、発送	・自動で料金、税計算し、請求書をメール送付 ・インボイス制度対応
決済履歴確認	・顧客自身で決済履歴や登録情報を確認できる状態	・会員向けマイページ ↳決済履歴、請求書DL ↳支払方法変更
財務レポート	・財務部門が必要とするレポートを作成 例)売掛金年齢表など	・種別、期間指定で自由にレポート出力可能

工夫点

- ・Stripeの有償オプションを活用し、未収金の管理や売上・収支管理を実施
⇒様々な集計が可能となった

7

Stripeが提供する「決済」

プロジェクト詳細 (Zapier)



機能	機能詳細	構築内容
実行トリガー	指定のアクションや結果をもとにシステムを自動起動したい	WebhooksやSchedule機能を用いて自動起動
処理の条件分岐	条件に応じて、実行する処理を変えたい 例) 決済が成功したら...	PathsやFilters機能を用いて処理を条件分岐
接続情報の管理	kintone、Stripeの接続情報を一元管理したい	Tables機能を用いて、マスタ管理。
エラー通知	システム処理にエラーが発生した場合は、各所に通知したい	・Office365 Teams通知 ・メール通知

工夫点

- ・顧客の登録や更新、決済業務までをAPIでつなげて自動化

8

Zapierが提供するシステム間の「連携・自動化」

※6,000以上のクラウドサービスと連携可能

[特別賞] 株式会社ALL CONNECT_1週間で新規ビジネス立ち上げは可能なのか？

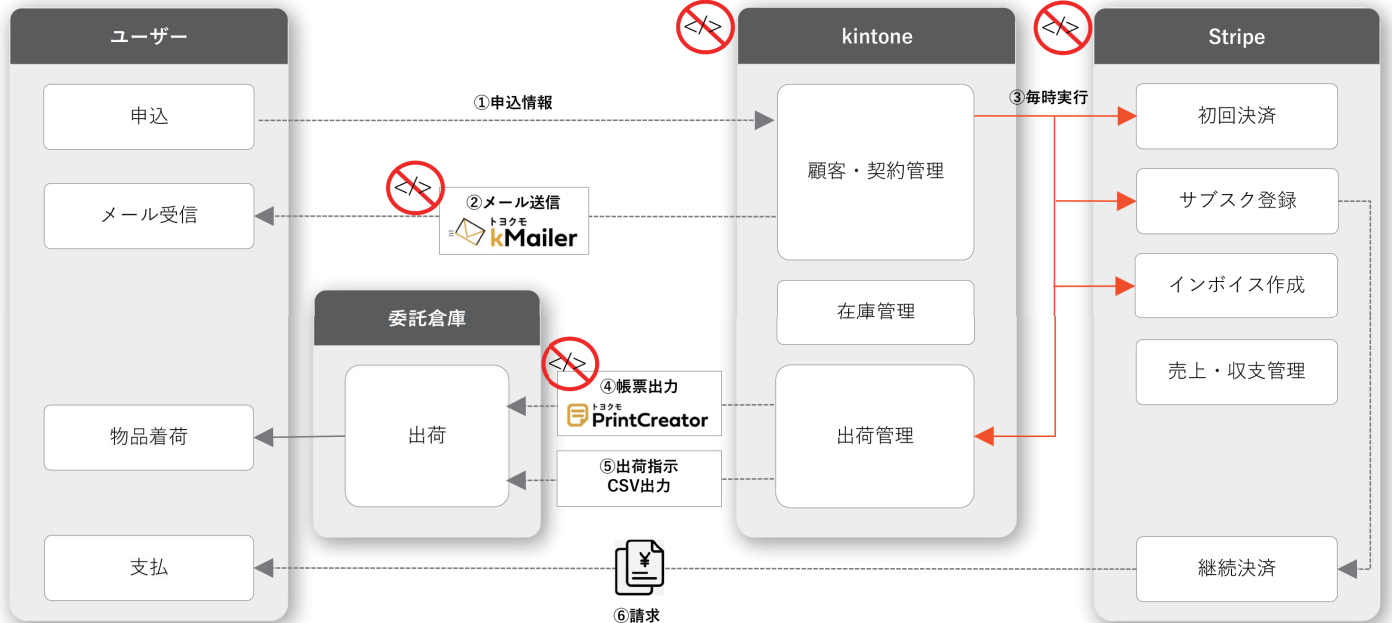
プロジェクトのアウトプット



ノーコードツール



システム → 手動



9

事業毎に構成全体をコピー⇒リリース

プロジェクトの成果やインパクト



- ・1週間は達成できなかったが、大幅に**期間短縮**を実現(費用も大幅削減)
- ・情シス部門の介入なく、**自分たち**だけで、複雑なサービス設計の事業運営に必要な基盤を用意できた。
⇒目的に合ったノーコードを活用・組み合わせて達成

構築期間

	Before	After
通信事業A:	180日(約2800万円)	通信事業C: 50日(約1070万円)
通信事業B:	175日(約2000万円)	通信事業D: 60日(約890万円)

情シスから解放され、新規ビジネス立ち上げが可能に。

2022年から2023年にかけて、社内の新規ビジネス立ち上げ数が**4倍**に増えた

1週間という目標は
今後も追いつけます!!

10

[特別賞] 株式会社ALL CONNECT_1週間で新規ビジネス立ち上げは可能なのか？



プロジェクトの実施体制

●お伝えするポイント



※プロジェクト管理ツール **backlog** by nLab を使用は

価値創造のためのデジタル活用のポイント



ノーコードは単なるトレンドではない、社員をコア業務に集中させ、**ビジネス展開**を進めるために不可欠な技術

ノーコードは個人に**成長の機会**と**スキル**をもたらす



Google Appsheet(スマホアプリ)を使った灯油タンク(40,000個)の破損点検業務の効率化・正確化

会社名・団体名

株式会社エネコープ

1

プロジェクト概要



紙による灯油タンク破損点検業務をスマホアプリにて効率化

プロジェクト前

- 組合員様と各エネコープ営業所、エネコープ本部では4万個のタンクを紙のみで点検業務を行っていることです。紙へ記載されている内容の点検漏れによる失注や、点検時間がかかることで実際の営業活動に時間をかけることができませんでした。また、紙だけでは実際の灯油タンクの情報が分からず、灯油タンク交換予備軍などの営業状況把握が属人的になっていました。
- 灯油タンク点検の結果を紙で集めてシステムスキャナーで読み込むプリンターが古く、データの取り込みに時間がかかっていました。4名体制で2ヵ月程度データ取り込みを行う効率の悪い作業をしなくては、正しくシステムに売上計上することができませんでした。

何をやったか

- Appsheetを活用して灯油タンク点検ができるスマホアプリを作成しました。

プロジェクト後の成果

- スマホアプリ化することで、灯油タンク点検の結果「灯油タンク破損具合の写真付き」でエネコープの誰でも見るようにできるとなり、点検状況の進捗から受注状況の把握までを1つのアプリで見れるようになりました。
- マップ機能を活用して、灯油タンク洗浄交換の対象者のみをマップ表示して、効率の良い交換ルートの生成できるようになりました。
- 紙(個人情報)の持ち出しが不要となった。
- 点検の元データはAppsheetに保存されてデータを基幹システムにインタフェイスすることで、売上計上することが簡単にできるようになりました。

2

[特別賞] 株式会社エネコープ Google Appsheet (スマホアプリ) を使った灯油タンク (40,000 個) の破損点検業務の効率化・正確化



プロジェクトの目的や背景

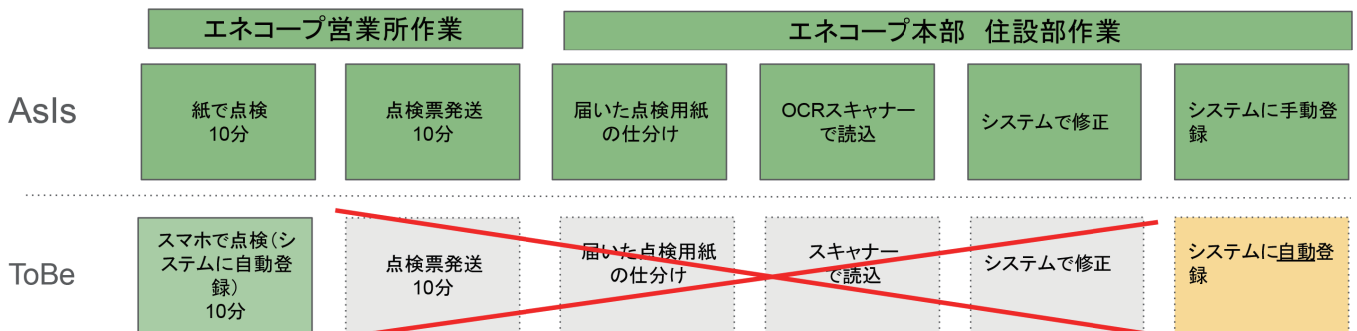
- 灯油タンク点検業務とは？
 - 株式会社エネコープでは夏季になると灯油タンク破損点検サービスを実施しています。冬季に灯油配送を行った組合員様へ灯油タンク修理や灯油タンク交換の提案を行うため、灯油タンク点検業務を実施しています。
- Appsheetによるタンク点検アプリ構築導入の目的
 - 現状の紙ベースの灯油タンク点検作業では、1件あたりの点検作業からスキャンデータ読込とデータ修正に非常に時間がかかっていた。
 - 担当者がタンク点検業務を経験し業務量の多さやアナログな作業を認識。これをデジタル化して効率化を図ることを決めました。
- 本プロジェクトのゴール
 - 紙ベース(OCRスキャン)の点検業務をスマホアプリで「破損具合の写真付き」でダイレクト入力することにより効率的かつ正確な業務遂行を実現する。

3



業務の改善前と改善後の違い

灯油タンク点検で業務システムへ登録するまでのフロー
 AsIs) 現状は紙で業務を動かしているのでシステムへ登録まで時間がかかる
 ToBe) スマホ化することで、スマホで点検データを入れるだけで
 システムへ登録するデータが生成されるようになった。



なくなる業務

4

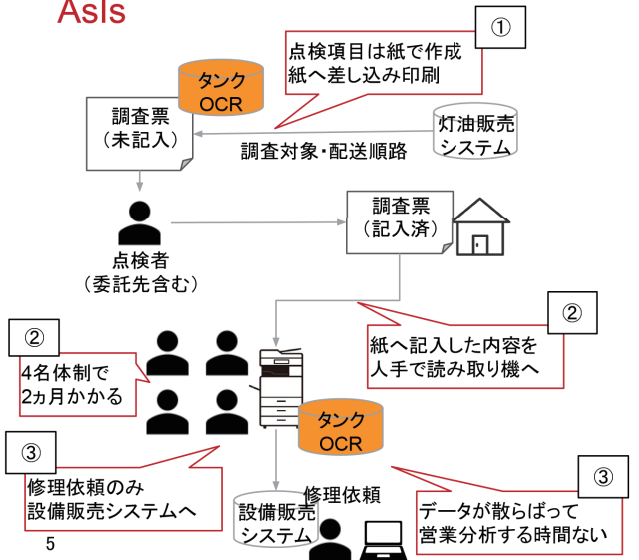
[特別賞] 株式会社エネコップ Google Appsheet (スマホアプリ) を使った灯油タンク (40,000 個) の破損点検業務の効率化・正確化



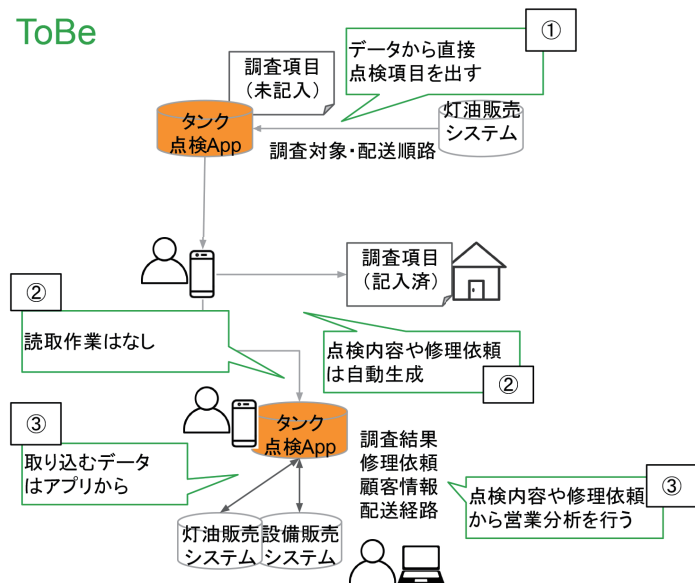
業務・システムフローの改善前と改善後の違い

AsIs) ①紙による点検、②点検データはOCRにて読み取り、③修理結果データしか見えない ToBe) ①データによる点検、②点検データ作成自動化、③自由な情報連携と分析が可能

AsIs



ToBe



点検の詳細作業 (紙業務とシステム画面) の改善前と改善後の違い



AsIs) 紙でデータを持っているので正常異常のデータのみを記録。属人的な営業活動。 ToBe) データ保存をすることで、誰でも営業所別個人別の営業表作成が可能になった。

AsIs

点検登録

記入ミス
見積ミス
スケジュールミス

ToBe

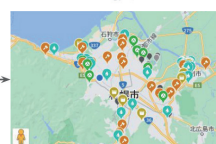
点検登録

タンク点検結果表

顧客名	ステータス	検出異常	作業状況	検数コード	検数	検日	作業予定日
佐藤 隆子	点検済	タンク交換	完了	12220	130	2024/02/22	2024/03/08 14:38
三野 孝子	点検済	タンク交換	完了	2870	151	2024/02/22	2024/03/08 14:47
豊田 隆夫	点検済	タンク交換	完了	7800	130	2024/02/22	2024/03/08 14:47
内田 秀樹	点検済	タンク交換	完了	10520	130	2024/02/22	2024/03/09 11:54

タンク交換カレンダー

タンク交換マップ



自動

[特別賞] 株式会社エネコープ Google Appsheet (スマホアプリ) を使った灯油タンク (40,000 個) の破損点検業務の効率化・正確化



システム画面にて効率化 (お客様の確認サインもスマホで完結)

タンク点検画面の詳細、この流れを1つのアプリケーションで実現可能

①タンク点検金額確定 → ②腐食場所の確認 → ③スマホにサイン → ④点検作業表出力

タンク内の点検結果について	
タンク内にサビあり	異常なし
項目	状況
①油量ゲージ(2,900円)	良好
②ストレーナーアップ(1,800円)	ひび割れ
③フィルター(1,650円)	汚れ・変色
④エア抜きパイプ(2,200円)	良好
⑤ストレーナー本体(3,630円)	良好
⑥ストレーナーネット(4,830円)	良好
⑦点検記録(1,650円)	良好
⑧点検(機上部分) (12,100円)	良好
総額計 ①~⑧ ¥10,600円、⑨~④ ¥4,000円	不要
その他おすすめの追加商品	NO

7



プロジェクトのアウトプット (実現できたことや成果物)

- お客様 (組合員さん) のメリット
 - 写真付きの破損具合を確認できることにより、タンク修理や交換の判断が簡単にできるようになった。
 - 手書きだと見積金額に計算間違いがあったり、点検する順番が人によってバラつきがあったが、スマホ化で手順通りに実行され、金額が自動計算されるので見積ミス点検ミスがなくなった。
- エネコープのメリット
 - 紙で集めた点検用紙をスキャナーで読み込む作業がなくなった。システム計上はデータ連携で完結。売上集計業務が不要になった。
 - 点検結果で灯油タンクに不良があった場合は写真画像で保存されるため、組合員様ごとにおすすみがしやすくなった。
 - セールスドライバー毎の点検実施状況がリアルタイムで分かるようになり、会社として、点検業務の進捗管理が簡単になった。

8

[特別賞] 株式会社エネコープ Google Appsheet (スマホアプリ) を使った灯油タンク (40,000 個) の破損点検業務の効率化・正確化

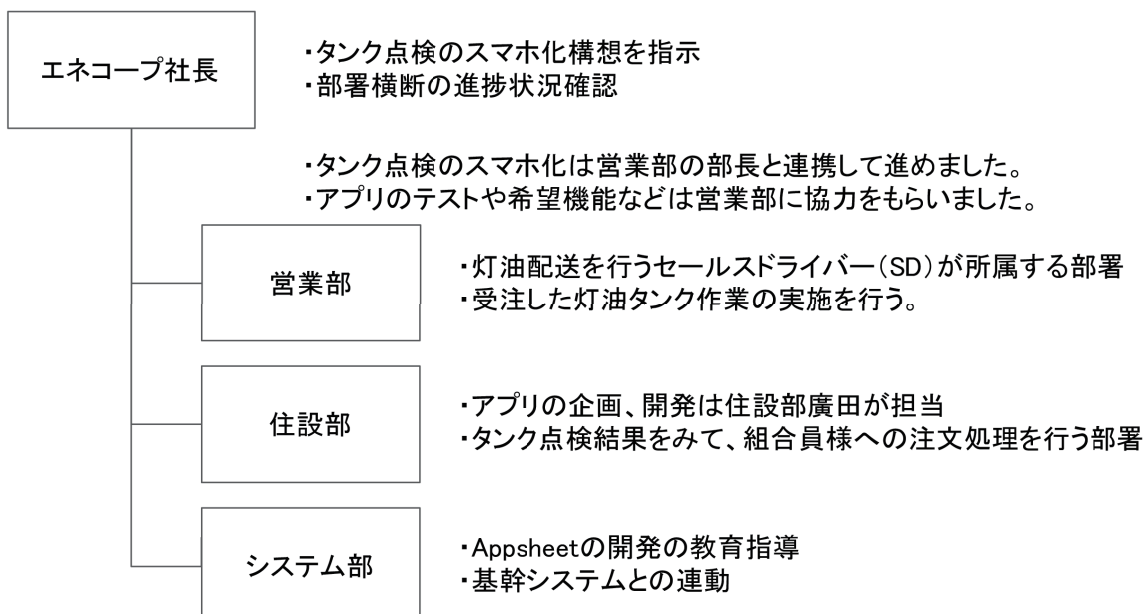
プロジェクトの成果やインパクト



- 成果
 - 点検業務の効率化
 - 40,000個のタンク業務の効率化
 - 経費の削減効果
 - 76%の削減効果(点検用紙、申し込み用紙など)
 - **年間90,000,000円の人件費の削減効果見込(40,000タンク*2250円「1時間あたりの人件費の45分」)**
 - 紙の点検用紙のままだった場合、3年~5年程度で古くなるOCRプリンターを保守交換する料金1,500,000円もかからなくなりました。

9

プロジェクトの実施体制



10

[特別賞] 株式会社エネコープ Google Appsheet (スマホアプリ) を使った灯油タンク (40,000 個) の破損点検業務の効率化・正確化



価値創造のためのデジタル活用のポイント

- **スマホの写真(画像)を業務に利用するメリットの最大化**
 - 灯油タンクの腐食状況を文書でなく写真で把握し、タンク交換時の下見が不要になりました。セールスドライバーや住設部担当者が多角的にタンク保守を提案することが可能です。
 - 営業状況をリアルタイムに写真付きで把握することで、タンクの腐食が酷い場合、タンクを設置して年数たっているのに営業をかけられない状況が少なくなる。
- **GPS機能の活用**
 - マップ機能で効率よく、タンク洗浄ルート交換ルート決めが可能
- **個人情報の保護**
 - プレ印刷された個人情報を営業マンが持ち歩く必要がなくなり、個人情報の保護につながる。
- **ベンダーによるスクラッチ開発ではなく、現場の従業員による開発でスピーディーに導入**
 - SEでない従業員がノーコードツールのAppsheetを活用して作成。システム開発コストを大幅に削減した。
 - 今後はセールスドライバー中心のフィールドサポートアプリとして進化していく予定。

付記(操作画面)



The image displays four screenshots of the Elog mobile application interface:

- Home Screen:** A dashboard with icons for 'マスターデータ' (Master Data), '受注済データ' (Completed Orders), '受注済マップビュー' (Completed Orders Map View), and '作業日カレンダー' (Work Day Calendar).
- 受注済データ (Completed Orders):** A table listing order details.

顧客名	ID_顧客コード	ステータス	受注商品	追加作業名
	70150453	● 未着手	▶ 部品交換 (タンク点検...)	
	05408537	● 未着手	▶ タンク交換	
	72106326	● 未着手	▶ 部品交換 (タンク点検...)	
	03201225	● 未着手	▶ タンク洗浄	
	05305843	● 未着手	▶ 部品交換 (タンク点検...)	
	14400274	● 未着手	▶ 部品交換 (追加作...)	
	72203141	● 未着手	▶ タンク洗浄+部品交換	
	05419962	● 未着手	▶ 部品交換 (タンク点検...)	
	05104258	● 未着手	▶ タンク洗浄+部品交換	洗浄+ゲージ+ストレ...
	05000366	● 未着手	▶ 未着手	▶ 未着手
- 受注済マップビュー (Completed Orders Map View):** A map showing the locations of completed orders in the Sakai City area, with a callout for a specific order showing a price of ¥4,400 and status '未着手' (Not Started).
- 点検ケースビュー (Inspection Case View):** A detailed view of an inspection case, showing three photos of rusted oil tank components labeled '不良箇所画像1', '不良箇所画像2', and '不良箇所画像3'.

特別賞

写真甲子園実行委員会



日本DX大賞

写真甲子園2024

ノーコードで支える 高校生のクリエイティビティ

写真甲子園実行委員会

プロジェクト概要（Webに公開予定あり）



日本DX大賞

今年で31回目を迎える写真甲子園とは、「写真の町」としても知られている北海道東川町により1994年に始まった全国高等学校写真選手権大会です。この大会は、日本全国の高校生が写真の技術と表現力を競う場として設立されました。毎年、多くの高校生が参加し、それぞれの視点で捉えた作品を通じて独自の創造性を披露します。

大会は、写真を通じて高校生の創造性や感受性を育成し、学校生活の充実を図ることを目的としており、文化的な価値と教育的な意義が高く評価されています。参加する生徒たちは、審査を通じて著名な写真家などに自身の作品が評価される貴重な経験を得ることができます。また、写真甲子園の開催は地域振興にも寄与しています。大会は町の魅力を全国に発信するとともに、写真を通じた文化的な交流が地域コミュニティの活性化につながっています。

年々、応募数が増え続けることへの喜びの一方で、実行委員会（町職員）の負担は増加傾向にあり、負担低減対策の検討が進んでいた中で、北海道に本社を構えるインターパーク社との出会いにより、ノーコードによる業務の効率化を進めることとなりました。今年度は昨年度以上の応募数が予想されています。今年度の大会の応募の締め切りは5月16日であるため、本大賞の応募時点（4月26日）では約50校の応募用紙を処理しています。本大賞の表彰式（6月21日）では成果が報告できると確信しています。



プロジェクトの目的や背景

プロジェクトの背景

これまでの写真甲子園では、各高校から紙ベースで応募が行われ、実行委員会(東川町写真の町課)が紙を見ながら手作業でエクセルに入力していた。この作業は非常に時間が掛かり、ミスも生じるものであった。昨年度は歴代最多となる584校からの応募があり、データ管理の負担が一層増大していた。この規模のエントリー業務は、実行委員会にとって大きな負担となっており、より効率的な解決策が求められていた。

プロジェクトの目的

写真甲子園のエントリー業務の効率化を図る。インターパーク社のノーコードツール「サスケWorks」を活用し、手書きの応募用紙の内容をデジタル形式に変換することで、データ管理の効率を大幅に向上させる。入力作業から実行委員会を解放し、写真甲子園の成功に向け、大会運営やその他の重要業務により集中できるよう支援する。

プロジェクトのアウトプット (実現できたことや成果物)



AI-OCRを活用した文字起こしにより、エントリー業務の効率化と作業負荷が軽減されました。文字起こし後のデータは即座にデータベースに反映され、実行委員会は迅速かつ正確な情報を準備できるようになりました。

応募フォーム

The image shows a handwritten application form for the Photo Contest. It contains fields for school name, address, phone number, and other contact information. The form is filled out with handwritten text in Japanese.

サスケWorks

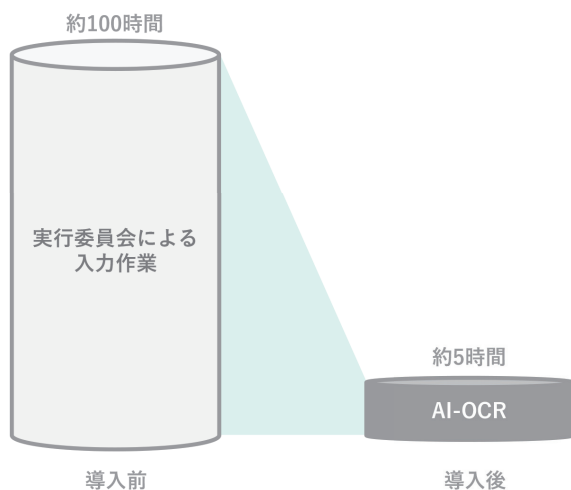
The image shows the digital application form interface in SaskaWorks. It displays the same form fields as the handwritten version, but in a clean, digital format. The interface includes a header with the contest name and a sidebar with navigation options.

[特別賞] 写真甲子園実行委員会 ノーコードで支える高校生のクリエイティビティ



プロジェクトの成果やインパクト

ノーコードツール「サスケWorks (AI-OCR機能)」により手書きの応募用紙のデータ化（エクセルへの入力作業）の時間が大幅に削減し、他の重要業務に、より集中できる環境ができました。



95%

作業時間の削減 (予測値)

効果

- 選考作業や運営業務への注力
- 高校生との密なコミュニケーション

プロジェクトの実施体制



プロジェクト体制

	写真甲子園実行委員会	インターパーク
責任者・委員長	菊地 伸 会長 (東川町 町長)	船越 裕勝 (社長)
マネージメント	竹田 慶介 事務局長 (写真の町課 課長)	梶原 友昭 (COO)
調整窓口	田中 勇佑 事務局 (写真の町課 主事)	千葉 春奈
開発・テスト	大武 夢歩 事務局 (写真の町課 主事)	千葉 春奈

[特別賞] 写真甲子園実行委員会 ノーコードで支える高校生のクリエイティビティ

価値創造のためのデジタル活用のポイント



プロジェクト成功への3つのポイント

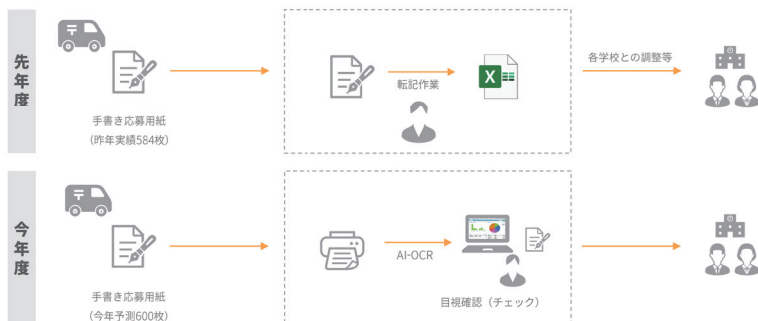
ポイント	補 足
実行委員会の負荷を低減	実行委員会の負担低減が本プロジェクトの最大テーマであった。
運用を変えない	現状は当町から紙の応募用紙を全国の高校に郵送し、各高校からは記載済みの応募用紙が郵送される。運用の変更は高校側にもインパクトがあるため、今回はこの運用を変えずに実施した。
次年度に向けて	2024年秋頃より郵便費の値上げが予定されており、現行運用にもコスト増の影響が想定される。WEBフォームでの応募等、来年は更なるデジタル化の検討を予定し、今回のプロジェクトが次年度以降の礎となる。

7

プロジェクト詳細



ノーコードツール「サスケWorks (AI-OCR機能)」により手書きの応募用紙のデータ化（エクセルへの入力作業）を大幅にスピードアップを目論む。作業時間を1/25に低減を予定している。



8

【任意】付記



DX推進のポイント

写真甲子園の成功は元より、従来の流れ（応募用紙の発送～応募受付～データ化～審査～大会）を極力変えずに部分的にDXを推進取り入れることができます。このことは、実行委員会の不安を払拭する意味でも非常に重要です。

アピールポイント

当実行委員会に関わらず、実行委員会が所属している役所の中には多くの手書き書類があり、DX、デジタル化を進めていくには障壁の1つでもあると考えられます。ノーコードベンダーと協力して、部分的にでもDX化を進めることは、大きな進歩となる可能性を秘めています。来年度は更にノーコードを活用したDXを推進していきたいと考えております。

9



Part 2

ノーコードツール 自治体導入事例 & 提案

アステリア株式会社

<https://plat.io/ja/>

所在地

〒150-0012
東京都渋谷区広尾1丁目1番39号 恵比寿
プライムスクエアタワー19F

お問い合わせフォーム

<https://plat.io/ja/feedback>



アステリアは社会や企業を「つなぐ」エキスパートとして「ソフトウェアで世界をつなぐ」をコンセプトに、ヒト、モノ、オモイを「つなぐ」製品やサービスを提供するソフトウェア開発企業です。基幹製品のASTERIA Warpは、様々なシステムやクラウドのデータをノーコードで連携できる製品として、1万社（2023年8月1日現在）を超える企業に導入されています。また、デジタルコンテンツプラットフォームHandbook XIは、資料や動画、Webサイトなどあらゆる情報をアプリにまとめて管理できるクラウドサービス。モバイルアプリ作成ツールPlatioは誰でも簡単に自社の業務に合ったモバイルアプリをノーコードで作成・活用できるクラウドサービス。ノード統合プラットフォームGravioはノーコードで様々な場所にある多様なデータを集約、活用し情報の一元管理を可能とするノードコンピューティング基盤。これらの製品提供を通じて、DXや業務の効率化を推進しています。

【製品名】モバイルアプリ作成ツール「Platio (プラティオ)」

■特徴一覧

提供形態	クラウドサービス
できること	業務向けのモバイルアプリをノーコードで誰でも簡単に短期&低コストで作成・活用
活用シーン	製造現場/物流現場/ビル・店舗管理/宿泊サービス/ヘルスケア/営業現場等
料金プラン	初期費用0円/月額2万円～

アプリ活用を支える4つの機能

- 作る:** テンプレートから選ぶだけでアプリのベースが自動で作成、業務に合わせて項目や見た目を設定し、すぐ利用可能
- 使う:** 日時や位置情報の自動入力や選択肢の入力補助で簡単かつスムーズに入力
- 見る:** データはブラウザから一覧やグラフ表示で確認、CSVやExcel形式でエクスポートも可能
- 検知:** 保存された情報を自動で検知し、プッシュ通知やメールでお知らせ

100種類以上のテンプレートからアプリを簡単作成

数時間～数日でアプリを作り、すぐに現場で使い始められます。開発期間や工数を大幅に削減でき、現場のDXにも最適です。

倉庫棚卸



視察管理



作業報告



飲酒検査報告



導入事例



Platioを導入し、現場のDXを推進、業務効率化を実現しています！

株式会社興徳クリーナー様
工場の日常点検報告をアプリ化し、年間400時間の業務を削減

株式会社ルネサンス様
忘れ物管理アプリを3日で内製、毎月最大550時間の管理業務を効率化

NTT東日本 茨城支店様
現場の“匠の技”記録アプリを2日で作り、技術継承を効率化

株式会社ナック様
紙の配送伝票をアプリ化し、年間約5万6千時間の業務を削減

Platioの導入事例



<https://plat.io/ja/>

熊本県小国町

<https://plat.io/ja/case/kumamoto-oguni>

被災状況報告アプリで即座に現場の情報を収集、迅速な初動対応に貢献

課題背景

被災状況の把握や共有、復興のための報告書作成に多大な手間がかかっていた

災害発生時に、電話や来庁者から報告される被災状況を用紙に書き込み、対策本部で共有していた。しかし、文字だけでは規模感や場所の正確性がつかみにくく、役場に戻らないと情報が共有されなかった。また、被災報告書を作成するための事務作業が多く、対応部署の業務量が逼迫していた。

導入効果

災害時に本部のモニターで町全体の被災状況を地図で共有、素早い状況把握が可能に

写真や位置情報とともに被災状況を報告できる「被災状況報告アプリ」を1日で作成。被災状況を素早く把握でき、初動対応が迅速化。ネットが不安定な場所でもその場で報告を完結でき、役場に戻る工数を削減。避難所の職員にも情報が共有され、本部に状況を問い合わせる工数を削減。被災報告に必要な緯度・経度情報を取得・活用でき、書類作成の負担が軽減した。



熊本県小国町

<https://jp.asteria.com/news/2021110115375/>

国政/地方選挙における自治体業務のDXを実現

課題背景

電話等の通信手段による各投票所からの情報収集に多大な手間がかかっていた

国政/地方選挙の投票日には、定期的に役場職員から選挙管理委員会に投票人数の報告が必要。その際に、電話等による各投票所からの情報収集を実施、同時に一斉に報告を受けることで別途集計作業が発生し、課題となっていた。



Platioの導入事例



<https://plat.io/ja/>

熊本県小国町森林組合

https://www.asteria.com/jp/news/press/2022/10/11_01.php

約1,000枚の入札票を完全デジタル化 国産木材流通のDXを推進

課題 背景

原木市の競りで使用する入札票の準備や配布、収集などに手間や時間がかかっていた

原木市の競りでは、原木ごとの希望購入金額を入札票に書いて森林組合の職員に渡し、入札票の中で最高値だった業者が落札者として口頭で呼び出される入札方法を実施。しかし、約1,000枚の紙の準備や回収後のデータの転記など、非効率な作業が課題に。



秋田県仙北市

https://www.asteria.com/jp/news/press/2021/04/20_01.php

イベント会場の混雑状況をリアルタイム共有

課題 背景

桜まつりの混雑状況の把握が難しい

例年県内外から約100万人以上が訪れる桜まつりでは、新型コロナウイルスなどの感染予防対策を強化するにあたり、会場内の状況などを把握する新たな仕組みが必要になった。

導入 効果

アプリの運用により、桜まつりの混雑状況などを会場スタッフとリアルタイムで共有

桜の開花や混雑状況、トイレの衛生管理や消毒液の設置状況などの確認結果をアプリに簡単登録。アプリを使用している職員10名にリアルタイムで情報が共有され、安心・安全に観光客の誘導が可能に。会場内のトイレに故障や不具合が生じた場合には現場管理者へメール通知が自動で送付される仕組みを搭載している。



Platioの導入事例



<https://plat.io/ja/>

秋田県仙北市

<https://plat.io/ja/case/semboku>

職員の検温結果の報告を アプリからワンストップで実現

課題 背景

職員の健康状態把握のため、毎朝の検温結果を自宅で手軽に記入させ、管理者に共有したい

共有のExcelシートでは庁内でないと記入・閲覧ができず、出勤が必須だった。また、自宅での検温から出勤して記入するまでの時差による記入漏れの発生や別の職員の健康状態も閲覧でき、十分にプライバシーが守られないことが課題に。

導入 効果

検温レポートアプリに体温を入力し、労務管理者が職員の健康状態を一覧で確認・管理

検温後、アプリからすぐに健康状態を報告でき、記入漏れを防止。職員の健康状態は労務管理者のみ閲覧でき、プライバシーが守られた。発熱の報告時には労務管理担当者にプッシュ通知されるため、健康状態に問題のある職員の出勤を事前に抑制できる。



Platioの使い方提案



<https://plat.io/ja/>

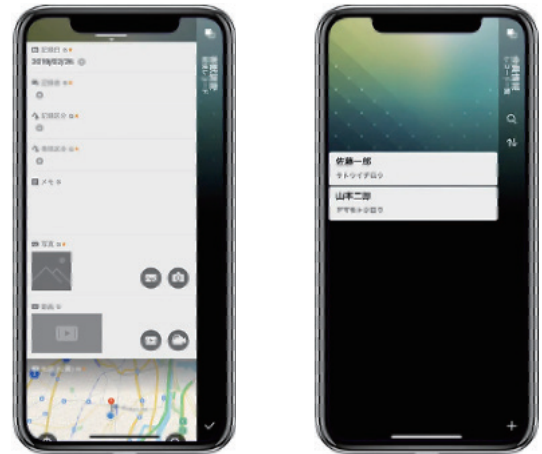
害獣被害の調査や発見情報を
スマホアプリから簡単報告

<https://plat.io/ja/features/plates/3949>

課題 背景

イノシシなどの害獣による被害状況の報告は
アナログなやり方で実施

イノシシなどの害獣被害が相次いでいる土地の農業を保護する取り組みが必要だが、害獣被害の報告や発見者からの連絡は紙や電話を利用している。そのため、正確な状況把握が困難であったりタイムロスが生じたりする課題が発生。



導入 効果

目撃情報をその場でスマホから報告、管理者はリアルタイムで状況把握が可能

山間部や田畑での害獣被害の調査や害獣の発見情報をアプリで簡単に管理。位置情報や写真の登録ができるため、詳細な状況把握や生息数の調査に貢献。データが蓄積されるため、月次や年次での集計報告が容易になった。



社用車の管理をアプリで効率化
アルコール検査の記録をデータで管理

<https://plat.io/ja/features/plates/34511>

課題 背景

自社の社用車管理や義務化されたアルコールチェックの管理を紙やExcelでの実施

紙での管理は用紙を紛失したり破れたりする可能性があり、また記入ミスの懸念が発生。Excelでの管理は転記作業などの手間がかかり、非効率的であった。さらに、写真での報告が難しく、情報の精度に課題があった。

導入 効果

アルコールチェッカーの結果を写真で撮ってその場で報告。入力や管理作業を効率化

アプリからアルコールチェックの数値やメーターの写真を登録し、リアルタイムで管理者に共有。酒気帯びの情報など、検知したい異常が報告された場合には、管理者にプッシュ通知で知らせることが可能に。スマホで写真を撮ってその場で報告できるため、情報の精度が向上した。



株式会社A-ZiP

<https://a-zip.co.jp/>

所在地

〒651-0092
兵庫県神戸市中央区生田町1丁目4-20
新神戸ビルディング

お問い合わせフォーム ▶
E-Mail: saap@a-zip.co.jp



1983年に創業し、企業向けの基幹系業務システムを1社1社オーダーメイドで開発してきた株式会社A-ZiP(当時株式会社三光システム)は、2007年より社内技術の標準化に取り組み、2012年にはいち早くAzureに対応した基幹システム開発標準プラットフォームを開発しました。これをさらに自動化に取り組み、製品化したものがノーコード開発ツール「SAAP」です。

元々はお客様の基幹系業務システムを開発するために、社内の標準プラットフォームとして開発された「SAAP」は、システム開発をしたことがない現場の方から、システム開発を本業としているエンジニアまで幅広く利用できる開発ツールです。

「SAAP」の大きな特徴は、伝票集計処理や伝票明細同士の差し引き計算などもノーコードで実現できること。身近な業務アプリから基幹系システムまで開発が可能です。

【製品名】 SAAP 【Webサイト】 <https://saap.jp/>

■特徴一覧

ご利用形態	クラウド(Azure)を利用した、MicrosoftAccessをノーコード開発ツールに進化させるアサインです
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹系クラウド業務システムの開発が可能 ・インターネット接続でどこからでも業務可能 ・もちろんシステムの開発/運用/保守業務も可能
活用シーン	既存Access、Excelシステムからの刷新/ 基幹システム、その他業務システムの新規開発/モバイル活用/BCP対策
無料トライアル	3カ月無料のトライアル企業募集中 (課題解決型伴奏サポート付き)

- 1. 多機能標準搭載**
 - ・複数人での同時利用
 - ・権限管理、排他制御
 - ・複数伝票明細の集計や統計
 - ・モバイルを適材適所で活用
 - ・最新バージョンの自動配布
 - ・キーボードによる高速入力
- 2. とにかく簡単**
 - ・システム開発知識不要
 - ・ドラッグアンドドロップ不要
 - ・英字設定不要
 - ・独自関数の習得不要
- 3. ローコード開発も可能**
 - ・VBAでローコード開発にも対応
 - ・開発環境はMicrosoft365

簡単なりポジットリ設定

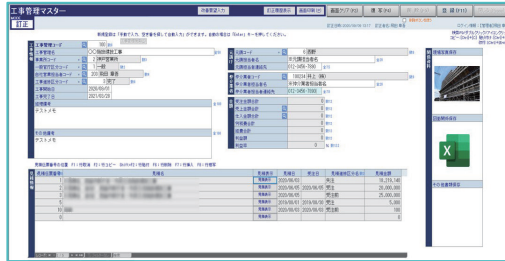
- ①作りたい画面の名前
- ②項目の名前
- ③項目の型(5つから選択)
- ④項目のサイズ



ボタン一つで一括生成(30秒)

- ・多機能標準搭載フォーム
- ・Azure側関連テーブル同時生成
- ・モバイル用Web画面同時生成

ノーコード標準搭載機能



- ・標準デザイン済みフォーム(編集可能)
- ・複数明細を持つ伝票入力
- ・登録・訂正・削除・複写の機能
- ・排他制御機能、項目チェック機能
- ・一覧POP、検索画面、訂正履歴、操作ログ
- ・ログイン管理、権限管理
- ・最新バージョン配布管理

配車スケジューラ事例

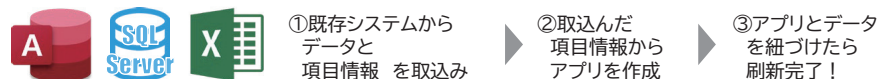


- 搭載機能例
- ・配送予定伝票
 - ・基幹データ取込
 - ・現場マスタ
 - ・車両マスタ
 - ・運転手マスタ
 - ・部材マスタ
 - ・ステータス管理 など

他にも
ノーコードで作れる

- ・即伝
- ・集計表/統計表
- ・CSV取込定義
- など

既存システムの刷新開発もSAAPなら3ステップで対応！



製品紹介チャンネル ▶

SAAPの解説セミナーや実際に動かしているデモ動画などご覧いただけます



サイボウズ株式会社

<https://kintone.cybozu.co.jp/>

所在地

〒103-6027
東京都中央区日本橋2-7-1
東京日本橋タワー 27階

お問い合わせフォーム

<https://kintone.cybozu.co.jp/consult/>



サイボウズは「チームワークあふれる社会を創る」という企業理念のもと、チームワークを支援するためのノーコード・ローコードツール「kintone」や、グループウェア「Garoon」「サイボウズ Office」「メールワイズ」などを開発・提供しています。

業種や規模を問わず、多くの企業やチームのみなさまにご利用いただき、その数はのべ1,250万ユーザー、16万社（※）になります。

アメリカや中国、ベトナムなどにも拠点を設立し、グローバルでもユーザー数を拡大しています。

※ 2024年1月末時点

【製品名】kintone【Webサイト】<https://kintone.cybozu.co.jp/>

■特徴一覧

提供形態	クラウドサービス
できること	ドラッグ&ドロップで業務システム(アプリ)を作成でき「データベース+ワークフロー+コミュニケーション」3つの特性を合わせもつ
活用シーン	顧客管理、出張申請、業務日報、案件管理、請求管理など、自社に合わせて幅広く活用
料金プラン	月額 1,500円～ (税別) / 1ユーザー・初期費用 0円 ※ 5ユーザーから契約可能

ITの知識がなくても、現場の業務をわかる人がシステムをすぐ作れる

- 東証プライム上場企業の3社に1社を含む全国32,500社以上（※）が利用中
- 導入担当者の93%が非IT部門。部署や立場・スキルに関わらず、業務アプリを作成できる。
- 提案、開発、設計、教育、運用相談など充実した日本語のサポート
- JavaScriptやAPIを利用して様々な外部サービスや基幹システムと連携が可能

※ 2024年1月末時点



ノーコードで業務システムをかんたん作成

どんどん改良できる

ドラッグ&ドロップで必要な項目を選んで並べるだけ



データベース機能

案件や顧客の情報を一か所にまとめて管理



エクセル・CSVファイルも読み込むだけで業務アプリに

コミュニケーション機能

データに紐づくコメント欄で指示やアドバイスを書き込める



豊富な活用・浸透コンテンツ



ITの知識がない現場部門でも分かりやすいコンテンツが豊富なので、内製化を進める際、現場を巻き込んだkintoneの活用がスムーズに。

kintone DX事例集




DXに成功した企業として、日清食品グループ様、星野リゾート様、京王グループ様などの事例までを掲載。

kintoneの導入事例



<https://kintone.cybozu.co.jp/jp/government/case/>

茨城県 下妻市

全庁的な業務改善基盤としてkintoneを活用。
研修会を実施し、ノーコード開発文化を庁内に浸透

課題背景

アナログ文化、紙ベースの業務プロセスが横行

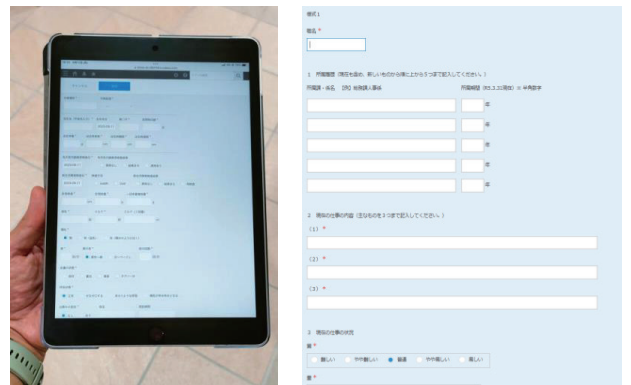
下妻市では、自治体にありがちなアナログ文化・紙ベースでのプロセスによる業務効率の低下が目立ち、なかなか業務改善が進まない状況があった。新規事業に対するシステム導入についても、コストの観点からなかなか進まず、現状維持の体制が目立った



導入効果

kintoneにより200以上のシステムを内製化
アジャイルな業務改善文化の浸透

kintoneを全庁的な業務改善ツールとして導入後、定期的な庁内研修会等を実施し、職員によるシステムの内製文化の浸透を図った。
「運転日誌アプリ」「赤ちゃん訪問時の記録アプリ」「選挙投票速報アプリ」「庁内研修会申し込みアプリ」「人事異動希望申告アプリ」「iPad修理依頼アプリ」など、様々なアプリを内製して作成。アジャイル型の業務改善文化の浸透が進んでいる。



静岡県 裾野市

kintoneベースのシステムで「おくやみ窓口」をデジタル化。職員の内製により短期に構築を実現

課題背景

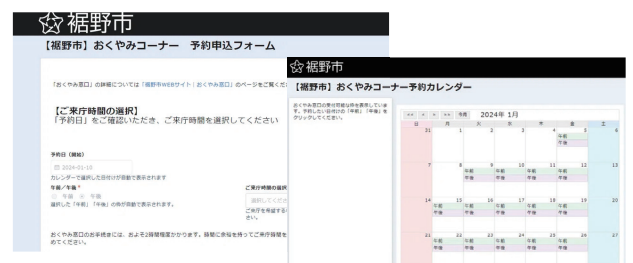
おくやみ窓口のワンストップ化

裾野市では、市民のご家族が亡くなった際にご遺族が行う手続きについて、福祉や税関連、相続に関するものなど多岐に渡り、ご遺族の方に係る負担が課題だった。

導入効果

kintoneと連携サービスを組み合わせ、短期間でシステムを内製

kintoneを用いたシステム構築により、職員が一からシステムを内製。窓口の予約状況の確認や、窓口の予約までシステムで行い、手続きのワンストップ化を実現。システム構築にあたっては、実際の業務に携わる職員の声をヒアリングしつつ、随時修正を行うことで、さらなる使いやすさの向上を図っている。



株式会社ジョイゾー

<https://www.joyzo.co.jp/>

所在地

〒135-0016
東京都江東区東陽4丁目10-4
東陽町SHビル 7F

お問い合わせフォーム

<https://www.joyzo.co.jp/contact/>



株式会社ジョイゾーは、2010年に設立され、サイボウズ株式会社が提供するクラウド型業務アプリケーション開発プラットフォーム「kintone」を使った開発業務を行っています。

システム開発サービスである「システム39」は、お客様の業務内容、悩みや課題を1回2時間、3回の打ち合わせで聞き取り、その場で解決のためのシステムを作り上げるノーコードを活用した定額制対面開発サービスです。リリース10年目となり、これまで1100件以上の対応実績があります。

また、kintoneを機能拡張できる「プラグイン」やLINE WORKSとkintoneをつなぐ「Joboco」、アルコールチェック管理ツール「ちえっかる」など、ノーコードで業務改善を行えるサービスを提供しています。

【製品名】J Camp 【Webサイト】 <https://www.joyzo.co.jp/service/jcamp/>

■特徴一覧

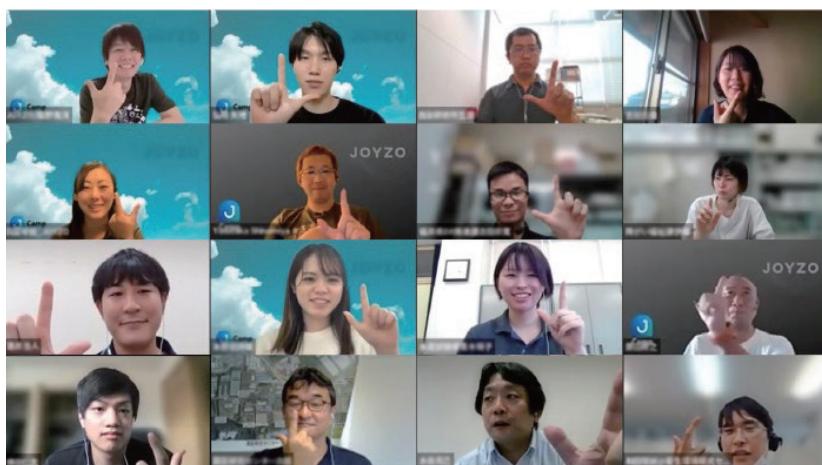
提供形態	伴走型DX支援教育サービス
できること	業務改善の考え方、データベースの基礎知識、コミュニケーション能力の育成といったDX実現に必要な“スキル”と“体験”を提供します
おすすめの使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善のスタートとしての利用 ・内製化のサポート
料金	39万円（税抜、一人あたり）

J Campで出来ること

- 学ぶ：**DXとはそもそも何か、ということについて、定義やゴール、実現に向けたマインドセットを学ぶことができます。また顧客目線を身につける研修を通して、社内のDXを推進するスキルを身につけます。
- 実践する：**対面でのシステム開発をロールプレイという形で体験することで、自分事として捉えることが可能です。ロールプレイでは顧客役、設計役、開発役など複数の役割をローテーションすることで、協働して取り組む経験を体感できます。

ITは特別な誰かのものじゃない

ツールではなく、実践を通してマインドセットを学ぶJ Campは、ITに苦手意識を持つ人にこそおすすめしたい研修です



導入事例 - 福井県



“全職員のDX人材化”

を目指して人事から水産試験場まで課を超えて学ぶ機会を提供

■DX推進人材の3か年計画

令和3年から3か年計画で庁内のDX人材を育成する計画をスタート。現場の業務改善を実施できる人材の育成を目的としてJ Campを採用。12人が参加、受講後はそれぞれ現場に戻り、実際の業務改善に従事。

■業務改善の実践～あわびの養殖管理

現場作業の洗い出し、ヒアリングからスタート。養殖管理で使用するシステムを内製化することに成功。

kintone, LINE WORKS, Joboco の導入事例



<https://www.city.ibusuki.lg.jp/>

鹿児島県指宿市

<https://kintone.cybozu.co.jp/>

<https://joboco.joyzo.co.jp/>

<https://line-works.com/>

作業時間計測アプリとボットで簡単に窓口業務時間を記録、収集し、スムーズなデータ分析を実現



作業時間の報告書作成やエクセルへの入力に多大な手間がかかっていた

窓口業務の作業時間の計測に際して、手書きによる報告書の作成は、通常業務を行っている窓口職員への負担が非常に大きく、提出された約1,500件の報告書をエクセルへ入力する作業負担も顕著だった。また、エクセルに入力したデータを分析のためにまとめ直す必要があり、作業が煩雑であった。

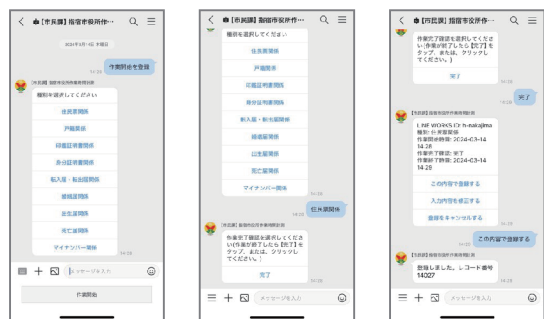
登録日	LINE WORKS ID	種別	作業開始時間	窓口作業終了時間	窓口作業時間 (分)	全作業終了時間	実作業時間 (分)
2024-04-22		電話案内	2024-04-22 14:00	2024-04-22 14:19	19分	2024-04-22 14:30	30分
2024-04-17	8baak8d9gal	電話案内	2024-04-17 18:38	2024-04-17 18:41	3分	2024-04-17 18:42	4分
2024-04-22	8baak8d9gal	電話案内	2024-04-22 14:04	2024-04-22 14:05	1分	2024-04-22 14:06	2分
2024-04-22	8baak8d9gal	電話案内	2024-04-22 10:04	2024-04-22 10:05	1分	2024-04-22 10:06	2分
2024-05-16	8baak8d9gal	電話案内	2024-05-16 11:02	2024-05-16 11:03	1分	2024-05-16 11:03	1分
2024-05-15	jayo	電話案内	2024-05-15 17:21	2024-05-15 17:21	0分	2024-05-15 17:22	1分

- 1 LINE WORKSで作業内容を登録
- 2 作業時間登録
- 3 作業時間分析



作業時間はLINE WORKSから自動で入力されるため、正確な作業時間を簡単に取得可能に

作業時間を4タップで登録できる「作業時間登録ボット (LINE WORKS、Joboco)」と「業務作業時間計測アプリ (kintone)」を1日で作成。窓口職員の負担を最小限にした上で正確な窓口利用時間の計測が可能となった。集計作業については、LINE WORKSからkintoneに直接データ登録させるため入力作業がなくなった。またkintoneにあらかじめ設定したグラフや集計により、分析のためにまとめ直す必要がなくなった。



kintone, PrintCreatorの使い方提案



<https://kintone.cybozu.co.jp/>

公用車の管理をアプリで効率化 車検や点検の記録を一元管理



公用車の管理は『複数のExcelファイルと紙』で一元管理されていないため作業が煩雑

車両管理における課題として、複数のエクセルによる管理のため、車検や法令点検のスケジュール管理、タイヤサイズやタイヤ交換履歴の正確な管理が困難です。さらに、車検証や自賠責保険証書の実物保管に伴うファイリングのため効率性に課題があります。公用車の型式や詳細情報、修繕履歴などが紙で管理されているため、必要な情報へのアクセスが困難となっています。



kintoneで公用車を効率的に一元管理

1画面で公用車情報を簡単に確認でき、車検満了日60日前と30日前にkintoneから自動で通知やメールが届きます。車検証や自賠責保険証書は電子ファイルで保管でき、刻々と変化する状況にも管理業務をkintoneがサポートします。使用記録等の必要な帳票類もkintoneから印刷ができます。



kintone, FormBridge

の使い方提案

<https://kintone.cybozu.co.jp/>
<https://fb.kintoneapp.com/>



住民への給付金支給を kintone でシステム化し、申請をワンストップ化

課題背景

窓口で提出される申請書や郵送で送られてくる申請書の手作業による処理の効率化

窓口で提出された申請書や郵送で送られた申請は、手作業での開封作業とデータ入力作業を行っており、多くの人員が必要です。また、申請には本人確認書類や口座情報が含まれており、それぞれを確認する必要があります

申請種別	申請種別	申請種別	申請種別	申請種別
申請種別	申請種別	申請種別	申請種別	申請種別
申請種別	申請種別	申請種別	申請種別	申請種別

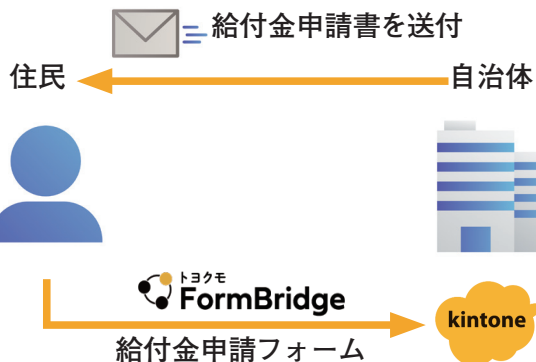
給付金申請管理アプリ

給付金申請フォーム

導入効果

給付金業務を kintone でオンライン化

住民からの給付金申請を kintone でオンライン化し、本人確認書類はスマートフォンなどからの写真撮影で提出可能です。また、振込先の金融機関名や支店名などの口座情報の入力は、一覧から選択することで誤入力を極力排除し、作業時間を削減し、給付金の振込処理時間を短縮できます。



道路や公共施設の損傷や不具合をスマートフォンから簡単通報、情報も一元管理

課題背景

住民からの道路や公共施設の損傷や不具合は電話による通報

道路の穴ぼこや公園の遊具の破損など、市民からの通報や職員の巡回で判明する損傷等の件数が膨大になっています。市民からの通報の多くは電話で受け付けているため、職員は電話対応に追われ、損傷箇所の確認などに課題が発生しています。

導入効果

住民はその場からスマートフォンで通報、職員は損傷箇所を写真と地図で確認が可能

損傷や不具合を発見した住民は、これまでの電話による通報のほか、投稿フォームから写真付きで通報ができるようになります。投稿フォームで受け付けた通報は、クラウドサービス[kintone]に連携され、情報が登録されます。これまで電話で受け付けた通報は、職員が kintone に直接登録できるので、投稿フォームからの通報と合わせて通報情報が一元管理できるようになります。また、投稿フォームからは写真が添付されるため、現地に行くことなく損傷を確認できます。

投稿フォームを作成し住民へ公開

ステータス	提出時間	内容	通報がある場所の説明	損傷箇所の写真写真	氏名
未処理	2024-03-27 10:00	道路	市道1号線のカーブ付近	道路	田中太郎
処理済	2024-03-27 10:00	公園	公園内のブランコ	ブランコ	山田花子

kintone で一元管理、集計も自動化

kintone, kViewerの使い方提案



<https://kintone.cybozu.co.jp/>
<https://kv.kintoneapp.com/>

要介護認定申請の進捗状況を Web 化し
 介護支援事業者と情報を共有

課題背景

要介護認定申請の進捗状況の電話対応が
 通常業務を圧迫していた

1日で50件前後の要介護認定申請の進捗状況に関する電話による問い合わせがあり、その対応に追われ、介護認定業務が遅れ、要介護度の決定が遅れていた。また、介護支援事業者は、閉庁時には進捗状況の確認ができないため、ケアプランの作成が遅れていた。

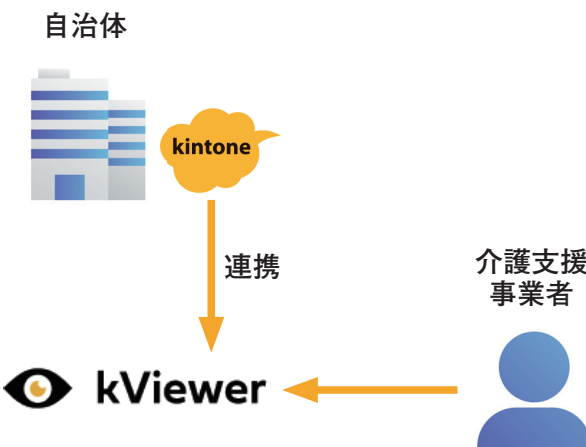
導入効果

Web 化の運用に伴い、介護支援事業者からの
 電話はゼロに職員の負担が軽減

要介護申請の進捗状況をオンライン化したことで、電話対応がゼロになります。介護支援事業者は24時間365日、いつでも進捗を確認できるようになり、効率的なケアプランの作成が可能となります。作業効率が向上したことで、介護を必要としている住民へ速やかに要介護度の決定が行えるようになります。

要介護認定進捗確認システム (デモ)

申請番号	申請日	区役所	認定日	1次判定	再度審査日	再審査日	2次判定
2000271	2024-02-21	南風	2024-03-28	要介護5	2024-03-08	2024-03-18	要介護5
2000281	2024-02-21	南風	2024-03-27	要介護4	2024-03-07	2024-03-17	要介護4
2000291	2024-02-21	区中東区	2024-03-26	要介護3	2024-03-06	2024-03-16	要介護3
2000301	2024-02-21	東野	2024-03-25	要介護2	2024-03-05	2024-03-15	要介護2
2000311	2024-02-21	南風	2024-03-24	要介護1	2024-03-04	2024-03-14	要介護1
2000321	2024-02-21	南風	2024-03-23	要介護2	2024-03-03	2024-03-13	要介護2
2000331	2024-02-21	区中東区	2024-03-22	要介護1	2024-03-02	2024-03-12	要介護1
2000341	2024-02-21	東野	2024-03-21	要介護5	2024-03-01	2024-03-11	要介護5
2000351	2024-02-21	南風	2024-03-20	要介護4	2024-02-31	2024-03-10	要介護4
2000361	2024-02-19	南風	2024-03-19	要介護3	2024-02-28	2024-03-09	要介護3
2000371	2024-02-18	区中東区	2024-03-18	要介護2	2024-02-27	2024-03-08	要介護2
2000381	2024-02-17	東野	2024-03-17	要介護1	2024-02-26	2024-03-07	要介護1
2000391	2024-02-16	南風	2024-03-16	要介護2	2024-02-25	2024-03-06	要介護2
2000401	2024-02-15	区中東区	2024-03-15	要介護1	2024-02-24	2024-03-05	要介護1



kintoneの使い方提案



<https://kintone.cybozu.co.jp/>

要介護認定申請の進捗状況を Web 化し
 介護支援事業者と情報を共有

課題背景

大量の審査会資料の印刷や審査会委員への配布、長時間にわたる介護認定審査会により超過勤務が常態化

大量の審査会資料を印刷し、事前に審査会委員に直接配布しています。また、当日は審査会委員が庁舎に集合して審査を行い、介護認定審査会終了後、資料はすべてシュレッダーで廃棄処分しているため、職員の作業時間が多く、職員の超過勤務が常態化しています。

導入効果

審査会資料はデジタル化し、審査結果は事前に集約することで、効率的に介護認定審査会を運営

審査会資料をデジタル化したことで、印刷作業や配布作業、廃棄作業が不要となります。さらに、審査結果を事前に集約することで、介護認定審査会の開催時間を短縮できます。

介護認定審査会アプリ



スムーズに循環させる仕組みづくり



株式会社テリロジーサービスウェア

<https://terilogy-sw.com/>

所在地

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-11-5

グリーンオーク九段4階

お問い合わせフォーム

<https://www.ezavater.com/contact/>



誰でも簡単にRPAを使えるはず、このRPAがあれば世の中が変わる、そんな思いを込めて2018年7月、画像認識技術を強みとした「究極的にカンタンなRPAツール EzAvater」をリリースいたしました。

開発ポリシーは「簡単さ」に重きを置いています。どんなに良い機能であっても、簡単に使えないものは搭載しない方針。定期的にリリースされる新機能はすべてお客様の要望からスタートしています。簡単さを維持できるかを天秤に掛け、つまずきそうなポイントには説明を添える、簡単さを追求・こだわり抜いたRPAツールです。

【製品名 EzAvater】【Webサイト】 <https://www.ezavater.com/>

■特徴一覧

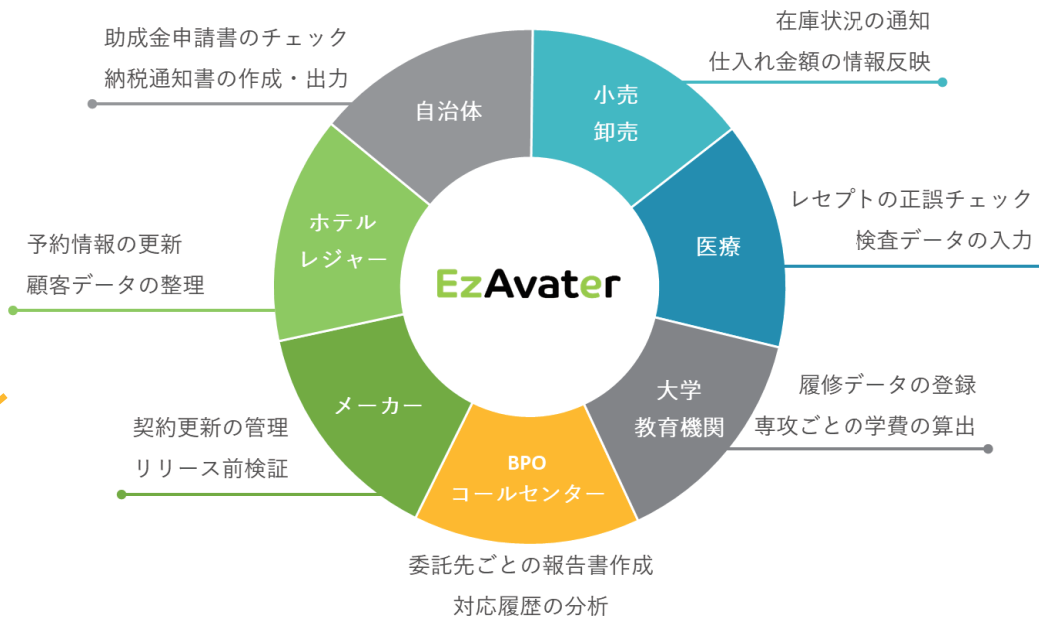
提供形態	オンプレミス PCまたはサーバにて利用
できること	だれでも簡単に開発運用ができ、 自社運用での業務自動化を実現
活用シーン	総務/経理/人事/営業あらゆる部署での 定型業務の自動化
料金プラン	フル機能ロボット 75万 実行専用ロボット 20万

EzAvaterの特長

- かんたん親切設計
 - アシスタント機能
 - 豊富なテンプレート機能
- 安心の運用支援
 - 充実の無料サポートメニュー
 - 無料サポートツール
- 拡張性のあるライセンス体系
 - 管理サーバ
 - フローティングロボット

各業界での活用例

EzAvaterは
さまざまな業界で
活用されています！



EzAvaterの導入事例



<https://www.ezavater.com/>

岐阜県下呂市

<https://www.city.gero.lg.jp/>

初年度から EzAvater の活用が進んだ 下呂市が行ったことは？

課題 背景

ツールを導入する目標は、「職場変革」

職員は、地域に出る活動ができると考えて入職しているのに、デスクワークが中心で、自分でなくてもできる仕事だと感じてしまうという声がありました。その点を改善したいと考えていました。

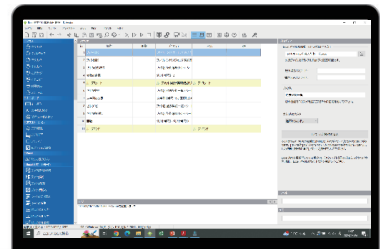
RPA ツールを使えば人員を削減できると認識されがちですが、ツールの導入はそれが目的ではないということもしっかり伝えました。

導入 効果

簡単操作の EzAvater でシナリオを量産でき、
その積み重ねで業務時間を大幅に短縮

極端に忙しい時期があったり、年に1度だけ大量に作業しなければいけない業務があります。そのような業務に使うことで、作業時間を削減できています。

業務時間外にも動かすことができるので、業務完了までのスピード感が上がったと感じました。手作業で、2週間ぐらいかかるところを、深夜も夜通し作業できるので、1週間以内に通知ができるようになりました。



直感的な操作性とわかりやすいUI

EzAvaterの使い方提案



<https://www.ezavater.com/>

法人市民税申告書の印刷及び課税台帳化の自動化

課題背景

大量の申告書の処理による残業と手間にかかるチェック体制が課題に

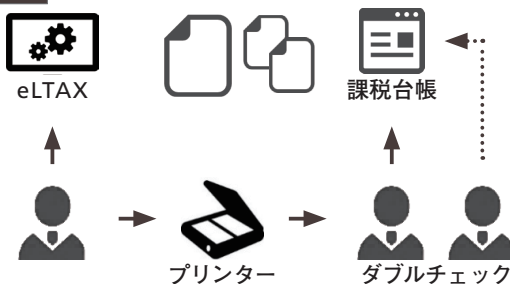
年に1度発生するeLTAXで提出された法人市民税申告書を印刷し、課税台帳に入力する業務。締め切りが決まっている業務のため、繁忙期には頻繁に残業が発生する原因に。また、入力ミスなどの人的ミスをなくすため、台帳への入力担当者とは別の担当者が入力内容のダブルチェック体制をとっていた。

導入効果

印刷から課税台帳への入力まで自動化のみならずさらにチェック体制の簡略化に成功

一度RPAで自動化シナリオを作ることによって毎年の業務負担を軽減。担当者はRPAで作成された入力結果をチェックするため、従前のようなダブルチェックが不要に。

導入前



担当者はeLTAXで申請書を確認し、既定のサイズで印刷。課税台帳に手入力し、別の担当者がダブルチェック。

導入後



RPAで直接申請書を確認し、印刷や台帳入力を自動化。課税台帳の入力データチェックでダブルチェックが不要に。

教育・保育給付認定業務の自動化

課題背景

繁忙期の残業時間と認定結果の通知の遅さが課題に

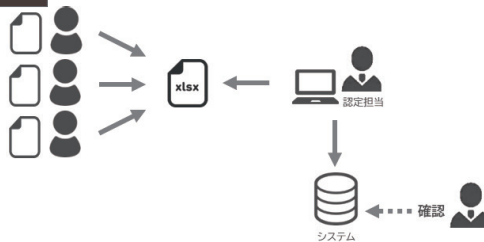
保育所などの入所申込書や各種証明書等の受付した情報をもとに認定処理を行う。保育園入園受付開始時期などの繁忙期では残業が発生。認定結果はシステムに入力し、別担当がダブルチェックする体制をとっていたため、認定結果の通知も遅くなる原因に。

導入効果

残業時間の削減に加え、認定結果の通知のスピードも改善

保育園入園受付開始時期などの繁忙期の残業時間削減に成功。RPAが処理することで1件あたりの入力スピードも向上し、認定結果の通知が早くなった。また、副次的な効果として誤入力などの人的ミスも無くなった。

導入前



申請書類を目視で確認し、申請情報をExcelに入力。担当者が認定処理をし、別の担当者が入力内容をダブルチェック。

導入後



OCRと連携することで申請書類をデータ化、システムへの入力を自動化し、工数を大幅に削減。



株式会社ヒューマノーム研究所

<https://humanome.jp/>

所在地

〒104-0045
東京都中央区築地2-4-10 SAテンハウス2階

お問い合わせフォーム

<https://humanome.jp/contact/>



ヒューマノーム研究所は、情報科学・生命科学に関する広範な知識と経験を活かし、健康で幸せな社会づくりに取り組んでいる会社です。

当社は、人員・費用に限りのある中小企業の皆様にこそ、AIを活用した作業効率化を進めるべきと考え、初心者でもカンタンに操作ができるノーコードAI開発ツールを開発・提供しています。表データ用の「Humanome CatData」は販売予測・在庫予測などに、画像・動画用の「Humanome Eyes」は検品など人の目で行う検査の半自動化にご利用いただけます。

当社のノーコードツールは、初心者の方でも無理なく使えるよう、必要十分な機能に絞り、操作に迷わないシンプルな操作画面で構成されています。中～高校などのAI・データサイエンスの教育目的としてもご利用いただいております。

【サービス名】Humanome Eyes/CatData 【Webサイト】 <https://humanome.jp/activities/eyes/>

<https://humanome.jp/activities/catdata/>

■特徴一覧

提供形態	クラウドサービス
できること	初心者の方でも無理なく使えるAI開発ツール。自社データから業務に組み込めるAIモデルが作れるか？を調査する初期段階に不可欠な検証作業を低コストで実施することができます。
活用シーン	目視で行う検査の自動化 (Eyes)、販売・在庫・来場者予測 (CatData)
料金プラン (月額・税込)	初期費用:0円、有料プラン:9,900円 (CatData)、59,400円 (Eyes)

AI導入のハードルを下げるポイント

1. **シンプルな操作画面**: 初心者の方が操作に迷わないよう、操作すべきポイントを絞りました。
2. **使うことでAI開発が理解できる**: 確認すべき工程は段階を踏んで確認する構成なので、使うほどAI開発の流れが理解できます。
3. **月額定額制**: 従量課金制はどうしてもコストが気になってしまうもの。当社ツールは納得行くまで検証できるよう、両ツールとも完全月額定額制でご提供します。

お手持ちの表・画像データを生かして、今日からAI開発！

社内に保管されている数値ログや検査画像を使って、現場担当者のコツが詰まったAIを自社で開発することができます。

物体検知ならHumanome Eyes

数値予測ならHumanome CatData



導入事例

Humanome Eyes / CatData はさまざまな企業・学校・研究機関でのAI導入・開発や人材教育をサポートしています。

導入事例はこちら→



製品紹介動画

Humanome Eyes / CatDataの操作感が1分以内でわかる動画をご覧ください。

Eyesはこちら→



CatDataはこちら→



HumanomeEyes, Humanome CatDataの 使い方提案



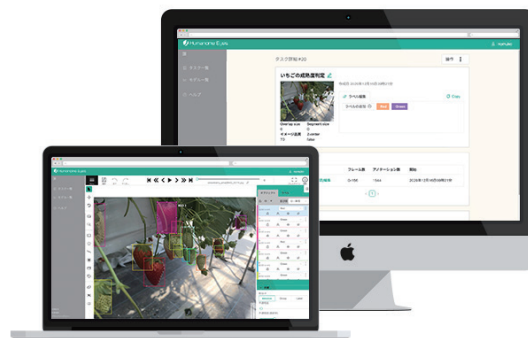
<https://humanome.jp/activities/case/>

「Humanome Eyes」でAIを短期間で開発。 ドローンによる建物検査で安全な現地調査を実施

課題 背景

建物検査にかかる人件費や検査時の危険性

建物検査は特に高度な専門知識を持つ技術者を必要とするため、一定の人的コストを必要とします。また、検査員が高所や狭い場所に立ち入る必要があるため、転落や閉じ込めなどのリスクが影響し、作業者の安全確保が難しく、保険料も高くなる傾向があります。人的エラーによる見落としや誤判断の可能性も存在するため、建物の安全性を確保に向け、綿密な検査が求められます。

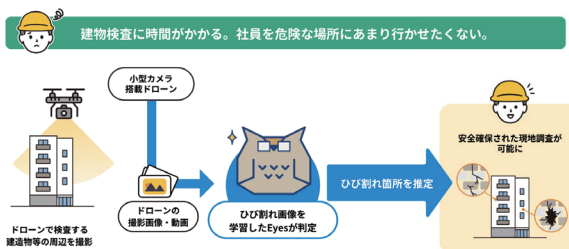


導入 効果

建物検査を実施するAIを作成し、安全が確保された
現地調査が可能に

Humanome Eyesで、ひび割れなどを検出するAIの作成が可能です。建物検査システムの導入により、安全性が確保された現地調査が実現します。ドローンなどに搭載されたAIを活用することで、高所や狭所などが立ち入るのが困難な場所でも安全性を確保した状態での検査が可能となります。

これにより人件費の削減と検査の効率化が図られ、作業者の安全性が飛躍的に向上し、人的エラーを減少させ、より精密で信頼性の高い検査結果を提供します。



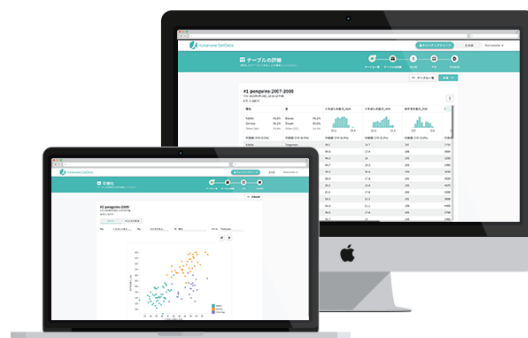
「Humanome CatData」で機械の故障予測AIを開発。 メンテナンスの時期を的確に判断

課題 背景

機械の故障による生産ラインの中断

機械の故障を正確に判断できない場合、予期せぬ停止や生産ラインの中断が発生し、業務遅延や生産性低下を招く恐れがあります。軽微な故障であっても、故障の見逃しは大きな修理や機械自体の損傷など、さらに大きな問題への発展リスクとなります。

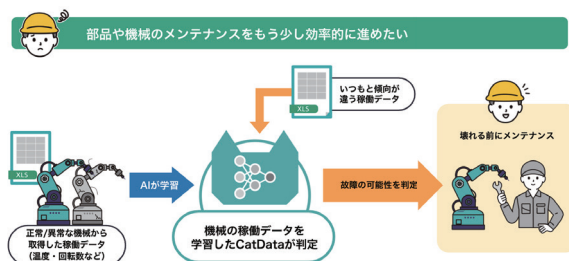
また、取り扱い機器の安全性が低下すると、労働者が危険にさらされる可能性もあります。



導入 効果

機械の故障判定AIを作成し、的確な時期にメンテナ
ンスを実施

Humanome CatDataを用いることで、機械の故障を判定するAIを開発することができます。このAIを用いることで、故障の早期発見や的確なメンテナンスが可能となります。故障予測AIの導入により、予期せぬ停止や生産ラインの中断を防ぎ、生産性を向上させます。また、軽微な故障をあらかじめ検知し、修理しておくことで、重大なトラブルを未然に防ぎます。結果として、メンテナンスコストの削減や生産性の向上が実現し、企業の競争力が強化されます。



一般社団法人 ノーコード推進協会 会員企業

※2024年7月1日現在、順不同

アステリア株式会社
サイボウズ株式会社
株式会社シムトップス
株式会社INDUSTRIAL-X
株式会社セゾン情報システムズ
ウイングアーク1st株式会社
グーグル・クラウド・ジャパン合同会社
株式会社ジョイゾー
株式会社NappsTechnologies
株式会社KIT
株式会社インプリム
BBIX株式会社
プライマルカラース合同会社
株式会社A-ZIP
株式会社ヒューマノーム研究所
テープス株式会社
株式会社 サンロフト
株式会社キュービック
CData Software Japan合同会社
秋田県仙北市
一般財団法人日本貿易関係手続簡易化協会
Pendo.io Japan株式会社
株式会社ネクステップ・ソリューションズ
Alba Innovation株式会社
株式会社エキップ
株式会社ジャスミンソフト
ヴェー合同会社
ビーフレンズ株式会社
ユタカ交通株式会社
株式会社セールスフォース・ジャパン
株式会社マイナビ出版
株式会社レッジ
株式会社ケーホウ
株式会社エージェンテック
株式会社テリロジーサービスウェア
一般社団法人NoCoders Japan協会
NPO法人学生ネットワークWAN
株式会社カミナシ
合同会社sowacana
株式会社システムズナカシマ
ESRIジャパン株式会社

SCSK株式会社
株式会社LIMNO
株式会社トライエッティング
株式会社Zeppy
IMT株式会社
熊本県小国町
ふじえだICTコンソーシアム
株式会社学研エル・スタッフィング
株式会社ワイズコンサルティング・ジャパン
小林クリエイティブ株式会社
キーウェアソリューションズ株式会社
株式会社ビーアライブ
エスコ・ジャパン株式会社
特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会
ホクレン農業協同組合連合会
株式会社ナノベース
ロジックシステム株式会社
パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
鹿児島県奄美市
株式会社C-RISE
大塚ファンド株式会社
秋田ワーケーション推進協会
一般社団法人 秋田RPA協会
株式会社ソフトビレッジ
株式会社UNISON HYBRID
一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会
株式会社高田工業所
学校法人江副学園新宿日本語学校
福岡県飯塚市
鹿児島県指宿市
株式会社裕生
CTCシステムマネジメント株式会社
学校法人 金井学園 秀林外語専門学校
福岡県直方市
株式会社東京技術計算コンサルタント
佐賀県産業スマート化センター
Yoom株式会社
小林製薬株式会社
Kore.ai Japan 合同会社
光海株式会社
株式会社ナイスユニ
株式会社桜井製作所
一般社団法人東京都情報産業協会
株式会社なないろのはな
株式会社リクルート

株式会社ニックス
株式会社寿商会
株式会社アークテック
株式会社ハブ
株式会社アイエルアイ総合研究所
株式会社アイ・エス・アイソフトウェア
日本マイクロソフト株式会社
一般社団法人日本オムニチャネル協会
株式会社アイエンター
アメージングアクティビティ株式会社
株式会社ケーメック
一般社団法人クラウドサービス推進機構
株式会社Zooops Japan
佐藤食品株式会社
合同会社プレシャスコネクション
キンコーズ・ジャパン株式会社
株式会社ラグロフ設計工房
一般社団法人日本デジタルアダプション協会
株式会社ヤマダヤ
エコー電子工業株式会社
Boot株式会社
一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構
株式会社キュービック
クラフテクス株式会社
株式会社インターパーク
株式会社プロイスト
TITC合同会社
北海道旭川市
長野県
静岡県焼津市
愛媛県
株式会社スペース
広島県三原市
株式会社ちりつも
トヨクモ株式会社
愛媛県西予市
大分県別府市
株式会社YNS
さくらホームグループ株式会社
株式会社Rapid Table
株式会社市場口ジカル
株式会社アーティスティックス
株式会社N I D東北
アークグロー株式会社
エン・ジャパン株式会社
株式会社文伸

エコービジネスソフトウェア株式会社
鳥栖市
DX事業協同組合
株式会社コア・エレクトロニックシステム
株式会社QED
株式会社OPENMODELS
ありがとまと本店
下妻市役所
株式会社岩手銀行
株式会社T Project
今治市
下呂市役所
株式会社アクシス
INNOOV株式会社
特定非営利活動法人きみたず
アクタスITソリューションズ株式会社
トヨクモクラウドコネクト株式会社
川端元彦中小企業診断士事務所
株式会社アイ・コン
一般社団法人グラミン日本
有限会社ティ・アールコーポレーション
オフィス吉田
松本商工会議所
株式会社プロフィックス
Wix.com Japan 株式会社
Cuest株式会社
株式会社 I T 経営総合研究所
一般社団法人ライトハウスDX支援協会
伊豆市
釧路市
ケアパートナー株式会社
SCSK Minoriソリューションズ株式会社
クミアイ化学工業株式会社
株式会社成田デンタル
愛知県設楽町
オレンジコンサルティング

ノーコード開発バイブル 2024 Summer 特別版

2024年8月9日 電子版 ver.1.0

編集 一般社団法人 ノーコード推進協会

<https://ncpa.info/>

制作 株式会社マイナビ出版

<https://book.mynavi.jp/>

